

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2023年6月22日

【事業年度】 第123期(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

【会社名】 田岡化学工業株式会社

【英訳名】 TAOKA CHEMICAL COMPANY, LIMITED

【代表者の役職氏名】 取締役社長 佐々木 康彰

【本店の所在の場所】 大阪市淀川区西三国四丁目2番11号  
(同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)

【電話番号】

【事務連絡者氏名】

【最寄りの連絡場所】 大阪市淀川区新高三丁目9番14号

【電話番号】 06-7639-7400(代表)

【事務連絡者氏名】 事業支援室部長 勝本 泰仁

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第119期	第120期	第121期	第122期	第123期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	24,457,572	25,671,601	32,057,443	32,374,017	30,166,521
経常利益 (千円)	2,582,165	2,710,025	4,062,590	2,798,775	457,768
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	1,819,658	1,897,494	2,615,407	2,063,736	310,650
包括利益 (千円)	1,829,301	1,903,783	2,645,470	2,079,641	337,227
純資産額 (千円)	11,414,063	12,969,994	15,237,893	16,749,243	16,570,631
総資産額 (千円)	22,838,746	24,468,986	27,958,460	32,417,778	31,069,018
1株当たり純資産額 (円)	796.32	905.04	1,063.44	1,168.92	1,156.45
1株当たり当期純利益 (円)	126.94	132.39	182.52	144.03	21.68
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	50.0	53.0	54.5	51.7	53.3
自己資本利益率 (%)	17.1	15.6	18.5	12.9	1.9
株価収益率 (倍)	7.1	9.9	14.8	7.7	37.2
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,588,927	2,848,116	5,218,856	1,329,580	1,478,085
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,301,008	1,583,060	2,094,972	2,075,381	4,339,767
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,404,874	694,535	680,449	273,534	2,995,879
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	1,320,167	1,884,591	4,330,354	718,630	853,402
従業員数 (名)	409	418	425	444	458
(外、平均臨時雇用者数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式がありませんので記載していません。  
2 平均臨時雇用者数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。  
3 2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。第119期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第119期	第120期	第121期	第122期	第123期
決算年月	2019年3月	2020年3月	2021年3月	2022年3月	2023年3月
売上高 (千円)	23,808,278	24,975,261	31,370,021	31,217,440	27,520,715
経常利益 (千円)	2,590,024	2,694,721	4,000,534	2,723,904	314,400
当期純利益 (千円)	1,839,473	1,901,591	2,571,855	2,006,409	219,071
資本金 (千円)	1,572,000	1,572,000	1,572,000	1,572,000	1,572,000
発行済株式総数 (千株)	2,888	2,888	2,888	14,440	14,440
純資産額 (千円)	11,355,034	12,891,293	15,106,196	16,591,688	16,283,670
総資産額 (千円)	22,754,342	24,347,638	27,832,197	31,928,782	30,277,579
1株当たり純資産額 (円)	792.21	899.55	1,054.25	1,157.92	1,136.42
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	100.00 (40.00)	120.00 (60.00)	160.00 (70.00)	108.00 (90.00)	27.00 (18.00)
1株当たり当期純利益 (円)	128.32	132.68	179.48	140.03	15.29
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	49.9	52.9	54.3	52.0	53.8
自己資本利益率 (%)	17.4	15.7	18.4	12.7	1.3
株価収益率 (倍)	7.0	9.9	15.1	7.9	52.8
配当性向 (%)	15.6	18.1	17.8	25.7	176.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (名)	341 (-)	352 (-)	360 (-)	374 (-)	386 (-)
株主総利回り (比較指標：配当込みTOPIX) (%)	147.9 (95.0)	217.7 (85.9)	447.6 (122.1)	195.8 (124.6)	152.1 (131.8)
最高株価 (円)	5,330	9,610	19,500	2,373 (14,440)	1,106
最低株価 (円)	3,060	2,853	6,450	945 (9,800)	718

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式がありませんので記載しておりません。
- 2 平均臨時雇用者数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。
- 3 2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。第119期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。
- 4 第122期の1株当たり配当額108円は、中間配当額90円と期末配当額18円の合計となります。2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合をもって株式分割を行っておりますので、中間配当額90円は株式分割前の配当額(株式分割を考慮した場合の中間配当額は18円)、期末配当額18円は、株式分割後の配当額となります。(株式分割を考慮した場合の1株当たり年間配当額は36円となります。)
- 5 最高株価および最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所市場第二部におけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。第122期の株価については株式分割後の最高株価および最低株価を記載しており、株式分割前の最高株価および最低株価を( )内に記載しております。

## 2 【沿革】

- 1919年4月 田岡商店を創業
- 1922年11月 合成染料の製造に着手
- 1934年10月 田岡染料製造株式会社を設立
- 1939年2月 第二工場を新設（2010年3月閉鎖、用地を売却）
- 1944年11月 田岡合成工業株式会社に商号を変更
- 1946年12月 田岡染料製造株式会社に商号を復帰
- 1949年12月 大阪証券取引所に株式を上場
- 1955年5月 住友化学工業株式会社（現 住友化学株式会社）が資本参加
- 1959年11月 合成ゴム用増粘剤（ゴム用粘着剤）の製造を開始
- 1961年7月 瞬間接着剤の製造を開始
- 1972年1月 田岡化学工業株式会社に商号を変更
- 1977年8月 株式会社田岡化学分析センターを設立
- 1978年11月 豊中包装株式会社を設立（2004年全株式譲渡）
- 1986年4月 東京営業所（現 営業本部東京支店）を開設  
田岡サービス株式会社を設立（2014年4月に田岡淀川ジェネラルサービス株式会社に社名変更）
- 1992年5月 本社社屋の完成（現 事務研究棟）
- 1994年4月 中華人民共和国に合併会社 田岡化学(天津)有限公司を設立（2005年5月出資持分を譲渡）
- 1997年8月 多目的合成工場の完成
- 1999年8月 中華人民共和国に合併会社 杭州国岡化工有限公司を設立（2008年10月出資持分を譲渡）
- 2000年10月 三建化工株式会社と合併(播磨工場(現 播磨工場(播磨地区))および愛媛工場(現 播磨工場(愛媛地区))を設置)
- 2002年8月 中華人民共和国に田岡(天津)有機化学有限公司を設立（2014年1月清算）  
インド共和国に合併会社アナボンド タオカ インド プライベート リミテッドを設立（現 タオカケミカル インド プライベート リミテッド、2006年10月に100%子会社）
- 2004年12月 播磨工場（播磨地区） 紙用加工樹脂の工場新設
- 2005年12月 淀川工場 精密中間体マルチ工場の完成
- 2010年6月 播磨工場（播磨地区） 新事務棟社屋の完成
- 2013年1月 シンガポール共和国にタオカ ケミカル シンガポール プライベート リミテッドを設立
- 2013年2月 田岡播磨ジェネラルサービス株式会社を設立
- 2013年7月 大阪証券取引所の現物市場の東京証券取引所への統合に伴い、東京証券取引所に株式を上場
- 2017年7月 播磨工場（播磨地区） 新多目的工場の完成
- 2019年10月 中華人民共和国に田岡化工材料(上海)有限公司を設立
- 2020年9月 営業本部および本社部門を大阪市淀川区新高に移転、本社とする
- 2022年3月 播磨工場（播磨地区） 新多目的プラント（N-2）の完成
- 2022年4月 東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第二部からスタンダード市場へ移行
- 2022年10月 合併会社MTオプティクス株式会社を設立



事務研究棟（大阪市淀川区）



淀川工場（大阪市淀川区）



播磨工場（播磨地区、兵庫県加古郡播磨町）



播磨工場（愛媛地区、愛媛県新居浜市）



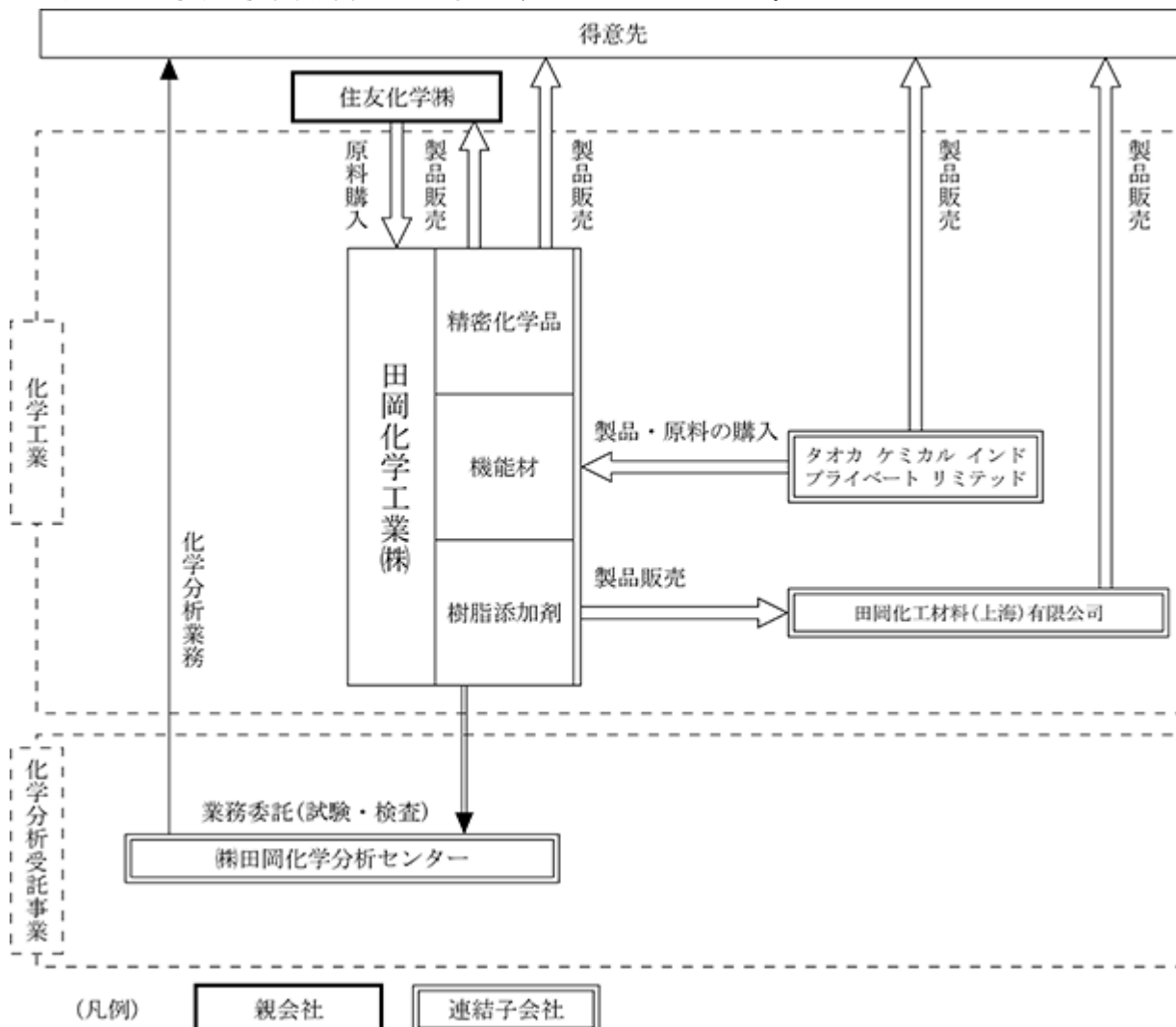
本社（大阪市淀川区）

### 3 【事業の内容】

当社グループは、当社および関係会社7社で構成され、その主な事業内容と当社および主な関係会社は次のとおりであります。

セグメント	事業部	事業内容	当社および主な関係会社
化学工業	精密化学品	医・農薬中間体 電子材料 樹脂原料 合成染料	当社
	機能材	接着剤 ゴム薬品	当社 タオカ ケミカル インド プライベート リミテッド 田岡化工材料(上海)有限公司
	樹脂添加剤	加工樹脂 ワニス 可塑剤 その他工業薬品	当社 田岡化工材料(上海)有限公司
化学分析受託事業		各種化学分析の受託	株式会社田岡化学分析センター

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



当連結会計年度より精密化学品部門は精密化学品事業部、機能材部門は機能材事業部となり、機能樹脂部門および化成成品部門は樹脂添加剤事業部へと統合しております。また、従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。

## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容
(親会社) 住友化学株式会社 (注2)	東京都中央区	89,810,301	総合化学工業	被所有 (50.61) (注1) [0.78]	当社製品の販売 原材料の購入 役員の兼任等...有
(連結子会社) 株式会社田岡化学分析センター	大阪市淀川区	30,000	各種環境分析等	所有 100	当社所有の建物・工具、 器具及び備品等の賃貸 役員の兼任等...無
タオカ ケミカル インド プライベート リミテッド (注3)	インド共和国 チェンナイ市	千インドルピー 200,000	瞬間接着剤の 製造・販売等	100	製品・原材料の購入 借入等の債務保証 役員の兼任等...有
田岡化工材料(上海)有限公司 (注3)	中華人民共和国 上海市	千人民元 16,939 (注4)	絶縁被覆材料、 化学品原料・製 品の輸出入、販 売	100	当社製品の販売 借入等の債務保証 役員の兼任等...有

(注) 1 議決権の所有(被所有)割合の[ ]内は、間接所有割合で内数であります。

2 有価証券報告書の提出会社であります。

3 特定子会社であります。

4 2022年12月に3,493千人民元、2023年2月に3,394千人民元を増資しております。

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

2023年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
化学工業	420
化学分析受託事業	38
合計	458

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 臨時従業員の総数が従業員の100分の10未満のため、その平均雇用人員数の記載を省略しております。

## (2) 提出会社の状況

2023年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
386	40.6	14.7	6,885,095

セグメントの名称	従業員数(名)
化学工業	386
合計	386

(注) 1 従業員数は就業人員であります。

2 臨時従業員の総数が従業員の100分の10未満のため、その平均雇用人員数の記載を省略しております。

3 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。

## (3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、1946年2月に田岡合成労働組合(1972年4月に田岡化学労働組合と改称)として結成され、「日本化学エネルギー産業労働組合連合会」に加盟しております。

2023年3月31日現在における組合員数は279人です。

労使は協調的態度的のもとに、円満な関係を持続しております。

## (4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

提出会社

当事業年度						補足説明
管理職に 占める 女性労働者 の割合(%) (注1)	男性労働者の 育児休業 取得率(%) (注2)		労働者の男女の 賃金の差異(注1)			
	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者	全労働者	正規雇用 労働者	パート・ 有期労働者	
10.6	62.5	-	82.5	85.9	49.6	(注3)

- (注) 1 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき算出したものであります。また、「管理職に占める女性労働者の割合」は、2023年6月現在の割合であります。
- 2 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の4第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。また、「男性労働者の育児休業取得率」の取得率は2022年度の取得率であります。なお、パート・有期労働者のうち配偶者が出産した男性労働者は0名であります。
- 3 「労働者の男女の賃金の差異」の詳細については、「第2 事業の状況 2 サステナビリティに関する考え方及び取組 男女間賃金格差」に記載しております。



## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。なお、業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報や合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により、大きく異なる可能性があります。

#### (1) 経営理念

「田岡化学は、化学技術を基盤として時代が求める新たな価値を創造し、生み出された化学製品を社会に供給することで、快適で豊かな暮らしの実現と社会の持続的な発展に貢献します。」

#### (2) 中期経営計画

2022年度～2024年度新中期経営計画

##### a. 経営基本方針

当社は、経営理念を実現し、社会に欠くことのできない企業として力強く発展を続けるために、当社自身がサステナブルな企業であり続けること、良き企業市民として社会のサステナブルな発展に貢献することにより社会的責任を果たすことの双方を経営の重要な目標と位置づけ、下記の通り基本方針を定めます。

当社は、サステナブルな企業であり続けるために、創業以来培ってきた有機合成技術と生産技術を常に進化させ、幅広い産業を支える基盤となる製品、豊かで快適な社会の実現に資する製品を提供・開発し続けます。

当社は、人権を尊重した事業活動を行います。また、明るく快適な職場づくり、従業員の公正な処遇、能力開発、安全と健康の確保に努めます。ダイバーシティの尊重を基本方針として掲げ、取り組んでいくとともに、国籍やジェンダー、年齢にかかわらず多様な人材が生き生きと活躍できる組織風土を作り上げていきます。

当社は、技術を重視し、創造した価値を知的財産権として適切に確保し、重要な財産として活用します。

当社は、顧客からの信頼を大切に、製品の安定供給、優れた製品品質の確保、顧客や社会のニーズに即した製品の開発・改良を行います。

当社は、株主、取引先、工場周辺地域、従業員等ステークホルダーへの公正、適正な情報開示に努め、対話を図ることにより、適切な関係を保ちます。

当社は、社会の持続的な発展に欠かせない地球環境の保全・良化に貢献するために、COをはじめとする温室効果ガスの削減などの気候変動問題への対応を始めとして、廃棄物量の削減、環境負荷低減、廃プラスチックリサイクルに取り組み、その進捗を適切に開示します。

当社は、安全を全てに優先させることをあらゆる事業活動の基本とし、無事故・無災害、工場の安全・安定操業の実現に努めます。

当社は、コンプライアンスを重視し、社会の一員としてそのルールの遵守を徹底するとともに、自由、公正、透明な取引を実践します。また、コンプライアンスに加え、自然災害への備え、原料の安定調達、事業BCPプランの不断の見直しなどリスクマネジメントを含む内部統制システムの充実に努めます。

当社は、多様な知見を有する取締役で取締役会を構成し、活発な議論を行うよう努めるとともに、その議論を経営に適正に反映させます。

##### b. 中長期的な事業目標

当社は中長期的な事業目標として売上高500億円、およびROIC（投下資本利益率）10%以上の継続達成を目指します。

##### c. 基本戦略

中長期的な事業目標の達成に向け、新中期計画では既存事業の収益拡大の取組みに加えて、新しい事業創出と既存事業の新しい展開を図ります。

基本戦略として、有機合成技術の知見や、機動性の高い生産対応、短期間での工業化を実現するなど当社の強みを生かし、成長分野での新規参入や既存分野での事業機会探索、更なる事業拡大など国内外のあらゆる事業機会を追求いたします。

また、アクションプランとして、人材確保・育成、DXの推進、リスクマネジメントの強化、社会のサステナブルな発展への貢献を掲げております。

d. 事業戦略

事業戦略においては、当社の事業を既存事業、新規事業に区分し、下記の通りとしております。

既存事業

- ・注力事業...樹脂原料、ワニス
- ・受託事業...医薬・農薬中間体、電子材料等
- ・育成事業...ゴム薬品、接着剤、加工樹脂、可塑剤等

新規事業

- ・現在手掛ける新規開発品の早期立ち上げ...光学樹脂用原料等新規開発品
- ・新規事業探索機能の強化...グラフェンナノリボン等

e. 業績目標および達成状況

	2022年度 実績	2022年度 当初目標	差異	2024年度計画
売上高(百万円)	30,166	33,000	2,833	37,300
営業利益(百万円)	451	1,250	798	3,300
売上高営業利益率	1.5%	3.8%	2.3%	9%
ROIC(注)	1.5%	3.9%	2.4%	10%

ナフサ価格	76,500円/KL	50,000円/KL		50,000円/KL
為替レート	136円/USD	110円/USD		110円/USD

(注) ROICとは投下資本利益率のことであり、次のような式にて算出しております。

$$\text{親会社株主に帰属する当期純利益} / (\text{株主資本} + \text{有利子負債})$$

中期経営計画の初年度である2022年度は、中国でのワニス販売が通期で寄与したことや、原料価格の高騰に伴う販売価格の上昇はあったものの、需要家等の在庫調整等による樹脂原料の出荷数量の減少や、ゴム薬品や可塑剤の出荷数量の減少により、売上高をはじめとする各目標を達成することは出来ませんでした。

f. 経営指標(KPI)

当中期経営計画におきましては、下記の経営指標(KPI)を設定しております。

- ・設備投資、研究開発計画  
 投融资計画...3ヵ年で100億円(新立地投資50億円を含む)  
 研究開発費...10億円/年
- ・業績目標値  
 売上高営業利益率9%超  
 ROIC(投下資本利益率)10%超
- ・新製品開発、海外事業規模目標  
 新製品開発目標...70億円/年  
 海外事業規模目標...70億円/年

## 2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (基本的な考え方)

当社グループは、当社自身がサステナブルな企業であり続けること、良き企業市民として社会のサステナブルな発展に貢献することにより社会的責任を果たすことを、当社経営の重要な目標と位置づけております。こうした考えにもとづき、2022年4月に新たな経営基本方針を定め、サステナビリティに関する諸課題に取り組んでおります。

### (ガバナンス・リスク管理)

当社グループは、中長期的な企業価値向上の観点から、サステナビリティに関する取組みを全社的に検討・推進する組織として、「サステナビリティ委員会」を設けております。本委員会は、当社のサステナビリティに関わる施策を計画・推進し、当該計画と推進状況を取締役に適宜報告し、その指導・監督を受ける体制としております。(注1、2)

このような体制のもと、当社の中長期的なサステナビリティに関する重要な課題を検討しました。重要な課題のうち、気候変動問題への対応と、人的資本への投資に関しては、以下に記載の通りであります。これら以外の重要な課題であるコンプライアンス、レスポンシブルケア、リスククライシスマネジメント、内部統制、コーポレートガバナンス等については、当有価証券報告書および統合報告書等において開示しておりますのでご参照ください。

- (注) 1. 当社のサステナビリティに関する体制は、当有価証券報告書「コーポレートガバナンスの状況等」(P31)において、体制図を開示しておりますのでご参照ください。  
2. 統合報告書2022年度版は、<https://www.taoka-chem.co.jp/sustainability/library.html>に掲載しております。

### (1) 気候変動問題への対応

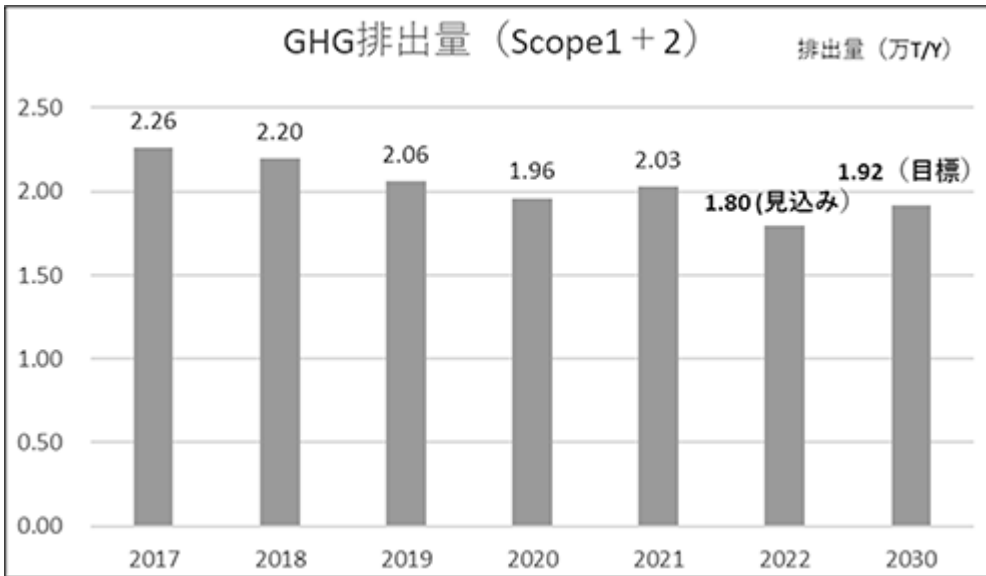
#### (戦略)

当社は、親会社たる住友化学株式会社が推進する気候変動対応への取り組み方針に則り、自社のGHG排出削減を目的として、SBT推進委員会を設置し、2030年度を目標設定年度とする取り組みを推進しております。具体的なGHG排出削減の取り組みとして、ボイラー、変電設備、ポンプ、熱交換器等エネルギー消費の大きい設備の高効率機器への更新、製品の製法・設備の改良による生産効率向上によるエネルギー効率化、太陽光発電の導入、全社の照明のLED化、エアコン等の更新によるエネルギー高効率機器への変換、再生可能エネルギーを含むエネルギー源の見直し、等があります。中長期的な取り組みとして全社的に実行し、適宜進捗状況を確認し、必要に応じて取り組み方法を見直す等により、着実に目標を達成していきたいと考えております。

#### (指標及び目標)

##### GHG排出量 (Scope 1 + 2)

当社グループは、GHG排出量 (Scope 1 + 2) に関して、2030年に2017年度比で15%削減することを目標と掲げております。また、2024年度の指標としてエチレン換算製品生産量当たりの原油換算エネルギー原単位及びCO2発生量原単位を1%/年の比率で削減する。(2019-21年度平均比3%削減) なお、2021年度実績は、2017年度比で10%の削減となりました。2022年度は排出量削減の諸取り組みに加え、工場における生産量減少が大きく影響し、GHG排出量は減少する見込みです。なお、将来的には生産量の増加を見込んでいることから、引き続きGHG排出量削減の諸取り組みを進め、2030年の目標達成を目指してまいります。



(2) 人的資本への投資（多様性の確保を含む人材育成方針および社内環境整備方針）  
 （戦略）

ビジネス環境の変化のスピードが加速し、事業構造が高度化、複雑化していくなかで当社の競争力と持続的な成長の源泉となる「人材」の重要性はかつてなく高まっており、当社では多様な人材を確保し、一人ひとりが働きがいを感じながら勤務できる制度や環境を整え、持てる能力・資質を最大限に引き出して育成していくことを最重要の事業戦略のひとつと位置付けています。

この基本戦略のもと、当社においてはより働きがいにつながる人事制度の策定、個と組織が『共創』し企業価値を高めていくことを目標とした研修・育成施策の充実、そしてダイバーシティの推進を通じて、多様なバックグラウンドを持つ従業員が互いに尊重しあいながら、個性と能力を発揮できるレジリエントな組織風土づくりを推進してまいります。

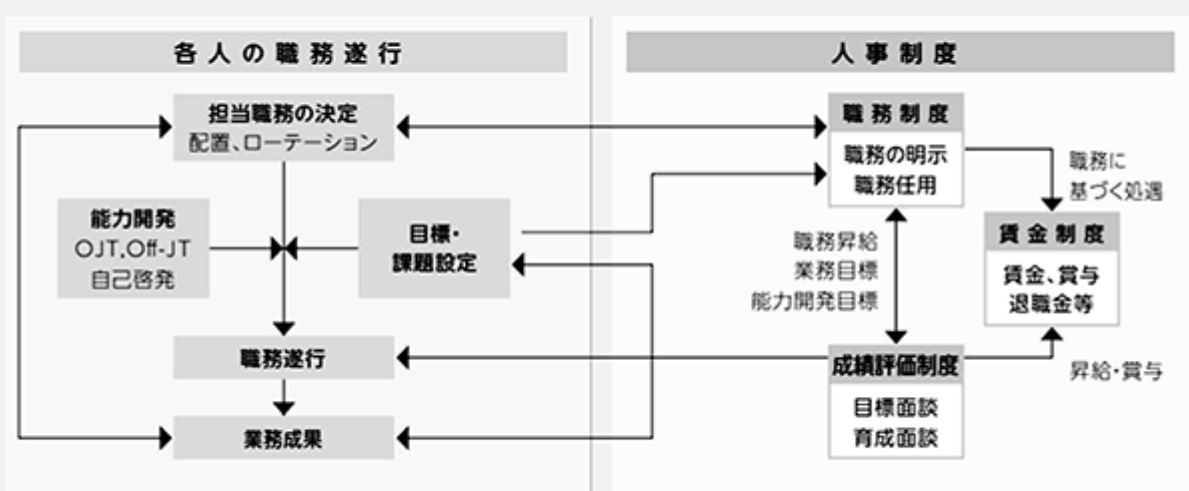
人事制度

当社の人事制度のポイントは、

- a. 従業員一人ひとりの業務成績や能力をより適正に評価し、処遇や育成に反映させること。
- b. 全社目標、部門目標の確実な展開を図るため、目標管理制度の一層の充実を図ること。
- c. より公平性、納得性のあるものであること。

であり、こうした人事制度のもと、自らの役割を認識するなかで個々人が成果をあげていくことによって、所属する部門の目標の達成や会社業績の向上につなげていくことはもちろん、自分自身の成長と働きがい、やりがいの実現につなげていきます。

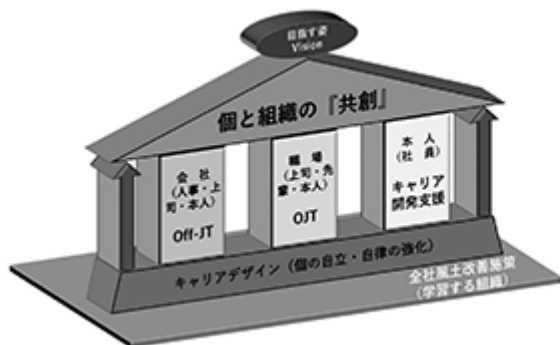
人事制度の体系図



## 人材育成

当社では、自身のキャリアを自ら描き、経験学習サイクルを回していくことができる「自立・自律」した社員を目指すべき姿（ビジョン）として、このような人材を育成するために、各種育成・支援プログラムを実施するとともに、こうした人材を育む土壌としての組織風土（「学習する組織」）の醸成も進めてまいります。

人材育成戦略の概念図



Off-JTプログラム企画の基本となる階層と能力の関係性



## ダイバーシティ

当社では、重要な経営課題のひとつとしてダイバーシティの推進を掲げており、中核人材である部長・課長相当職における女性比率や女性が活躍できる職域の拡大を具体的な目標として設定し、その実現のために採用、研修、環境整備など各種取組みを推進しています。研修に関しては、「ダイバーシティ&インクルージョン経営セミナー」「女性活躍推進研修」等を実施するなど、社員の意識面での啓蒙にも取り組んでいます。

また、グローバル経営の一層の推進を図るうえで必要な能力・資質をもった人材については、国籍を問わず採用し登用することを基本方針としており、2023年5月時点で日本国内で勤務する外国出身者は5名（うち管理社員4名）となっております。

## ワークライフバランスの推進

当社では、従業員の多様性を活かすことで、一人ひとりの意欲や能力を最大限発揮することを目指し、さまざまな取組みを行っています。

多様な人材の活躍を支援するための施策として、柔軟な働き方を実現する各種制度「コアタイムのないフレックスタイム制度、在宅勤務制度」をはじめ、退職した社員の再雇用や系列転換制度、有期雇用者の正社員登用や障がい者雇用の推進等 働きやすい職場づくりなどを進めています。

## 健康

人材戦略を推進するうえで、心身の健康促進はその基盤として非常に重要な取組みであると考えております。このため当社グループでは、従業員の健康保持・増進のため、定期健康診断項目の追加、生活習慣病健診対象年齢の引き下げ、自己負担健診項目費用補助金支給など、様々な施策を推進するとともに、医師による講演会などを通じて意識面の啓蒙にも力を入れています。従業員の心身の健康状態については、会社と産業医、診療所医師が情報共有し、症状の改善や重篤化の防止に努めるとともに、ストレスチェックの継続実施などによるメンタルヘルスケアにも積極的に取り組んでいます。

## （指標及び目標）

当社は、KPIとして「2020年度から5年間の目標として、a.課長相当職以上の女性社員の割合を、3ポイント（9.6% 13%）以上増加させる。b.製造部門（間接補助業務を除く）に女性スタッフもしくは管理社員を1名以上配置」を掲げております。2023年6月時点の課長相当職以上の女性社員の割合は10.6%となっておりますが、当該目標の達成に鋭意取り組んでいきます。

## 男性の育児休業取得率

女性活躍推進法に基づく行動計画として男性の育児休業取得率を2020年度から5か年の目標として7%以上と掲げ、育児休業制度のニーズを調査し、拡充した制度「育児休業（一部）有給化」を導入しました。その結果取得率2020年度には0%であったものが、2021年度は36.4%、2022年度には62.5%となりました。更なる取得促進を図るため、行動計画を見直し2023年度からは男性社員の育児休業取得率70%以上を目標に鋭意取り組んでい

ます。

男女間賃金格差（単体・出向受社員含む）

（2022年度）	男女の賃金差異 （男性の賃金に対する女性の賃金の割合）
全労働者	82.5%
正社員	85.9%
パート・有期社員	49.6%

対象期間:2022事業年度（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

賃金:基本給、超過労働に対する報酬、賞与等を含み、退職手当、通勤手当等を除く。

正社員:出向者については、当社から社外への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む。

パート・有期社員:パートタイマー、嘱託を含み、派遣社員を除く。

差異についての補足説明:

<正社員>

当社の生産部門においては、交替勤務制を採っており、交替勤務者については休日・深夜労働等により交替勤務手当が支給されております。（現時点における女性の交替勤務従事者は0名）

そのほか、女性社員（制度対象者）の育児休業、育児短時間勤務制度の利用率は100%で、利用者の給与は減額となることや、管理職の男女比率も賃金差に影響しております。

当社としては、製造職場を含めて女性が働きやすい職場環境・制度の整備を推進し、に掲げるKPI目標の達成に取り組んでいきます。

<パート・有期社員>

有期社員・パートの賃金についてはその職務内容等に応じて個別に設定しております。有期社員の多くを占めているのは、定年退職後再雇用嘱託社員であり、当社の年齢構成上、該当者は男性のみとなっております。一方、パートの職務には全員女性が従事しております。定年後再雇用嘱託とパートの職務内容はジョブサイズが異なり、前者の方が比較的賃金水準が高いため、賃金格差に影響しております。

\* 人的資本への投資に関する指標及び目標については、当社の統合報告書2022年度版において開示しておりますのでご参照ください（<https://www.taoka-chem.co.jp/sustainability/library.html>）。

### 3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。ただし、投資家の判断に影響を及ぼす可能性のあるリスクは、これらに限定されるものではありません。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループではこのようなリスクを最小化するとともに、これらの機会として活かすためのリスク管理体制の整備・充実に努めております。詳細は「第4 提出会社の状況 4 コーポレート・ガバナンスの状況等 (1) コーポレート・ガバナンスの概要 企業統治に関するその他の事項 (ロ) リスク管理体制の整備の状況」に記載しております。

#### (経営戦略に関わるリスク)

##### (1) 特定の取引先等への高い依存度に対するリスク

当社グループの売上高のうち、一部の取引先に対しての依存度が高く、それらの会社とは、納入数量、価格等に関する長期納入契約等は結んでおりません。取引先の製法転換等による製品の需要減退が発生した場合、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

なお、具体的対策としては、新製品等の開発や既存製品の競争力を強化しシェアの維持向上を図ることや、海外事業比率の向上等の施策を行っております。

##### (2) 国内および海外市場での需要変動によるリスク

当社グループは、直接的または間接的に製品を国内外に供給しているため、日本国内やアジアをはじめとする主要市場の景気動向から影響を受け、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (3) 原材料の価格の変動や調達によるリスク

当社グループは、原油・ナフサ価格に連動する石油化学製品のほか数多くの原料を国内外から直接または間接的に調達しております。原油価格の高騰や異常気象、感染症のまん延等、予測困難な問題によりさらなる原材料価格の上昇および調達が困難となった場合、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

購入原料価格の変動には、タイムリーに製品価格へ転嫁するように努力しており、調達が困難にならないよう代替原料、生産地域が異なる同一原料、複数の調達ルート確保を図っておりますが、影響を完全に回避するものではありません。

##### (4) 為替相場の変動によるリスク

当社グループは、原材料の調達、製品販売における外貨建て取引等を行っており、為替リスクが存在します。当社は、海外からの原材料の調達が海外への製品販売を上回っているため、外国通貨に対して、円安になると当社に悪影響を及ぼす可能性があります。なお、当社では、外貨建て営業債権は、日本円に両替せず、外貨建て債務の支払いに充当しておりますが、為替リスクをすべて回避できる保証はありません。

また、海外の関係会社の経営成績は、連結財務諸表作成のために円換算しております。換算時の為替レートにより、円換算後の価値が影響を受ける可能性があります。その場合、当社グループの経営成績並びに財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

##### (5) 研究開発におけるリスク

当社グループの研究開発は、中長期的な視点も織り込んで取り組んでおります。その範囲は既存製品群の改良研究から新規分野における研究まで多方面にわたっておりますが、研究開発という性格上、開発のスピードやタイミング、競争相手の存在等からの影響も受けるため、必ずしもその成果が直接的に経営成績へ反映されない場合があります。なお、具体的な研究開発活動は「第2 事業の状況 6 研究開発活動」をご覧ください。

#### (事業継続に関わるリスク)

##### (1) 事故・災害のリスク

当社グループは、生産設備における定期検査、要員の教育、防災訓練等、適宜実施しておりますが、工場における火災等の事故や停電、地震、洪水等が生産活動へ影響することを完全に排除できる保証はありません。

##### (2) 製品の品質

当社グループは、世界的に認められている厳格な品質管理基準に従って、各種製品を製造しておりますが、すべての製品について予期し得ない重大な品質問題が発生しないという保証はありません。製造物責任賠償については、PL保険に加入し、万一の事故に備えておりますが、賠償額が保険の補償範囲を超える大規模な製造物責任につながるような品質問題が発生した場合、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影

響を及ぼす可能性があります。

(3) 知的財産権

当社グループは、他社と差別化できる技術とノウハウを蓄積し事業の競争力を強化してきましたが、当社グループ独自の技術・製品とノウハウの一部は、厳正な管理を行っているものの、第三者が類似製品を製造することを効果的に防止できない可能性があります。また、将来、知的財産に係る紛争が生じ、当社グループに不利な判断がなされる可能性があります。

(4) 海外生産拠点における事業展開に関するリスク

当社グループは、海外拠点に生産拠点や販売拠点を有し活動しておりますが、進出先において、予期しない法律または規制・制度等の変更、当社グループにとって不利な政治的または経済的要因、テロ、戦争その他の要因による社会的混乱等の発生により財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 訴訟

当社グループは、国内および海外事業に関連して、訴訟、係争、その他の法律的手続きの対象となるリスクがあり、将来重要な訴訟等が提起された場合には、当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) 工場立地上のリスク

当社グループの工場を取り巻く立地環境は、結果的に市街地となっております。騒音、臭気問題等に対して対策は取っているものの、それらに対するクレームや住民による反会社運動、係争事件への発展による賠償義務等予期できないリスクが存在し、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に悪影響を及ぼす可能性は否定できません。

(7) コンピューターシステムのリスク

当社グループは、会社運営の全般に亘ってコンピューターによる業務処理を実施しており、地震・火災等の災害によるハードウェアやネットワークの損傷、ならびに外部からのコンピューターウイルス攻撃やハッキングによるシステムトラブルやデータ破壊に対して、外部との接続制限、侵入防止、マルウェア感染防止、バックアップの確保、従業員の教育などの各種対策を取っております。しかしシステムトラブル、データ破壊、更には情報の盗難・漏洩等を完全に防げる保証はありません。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

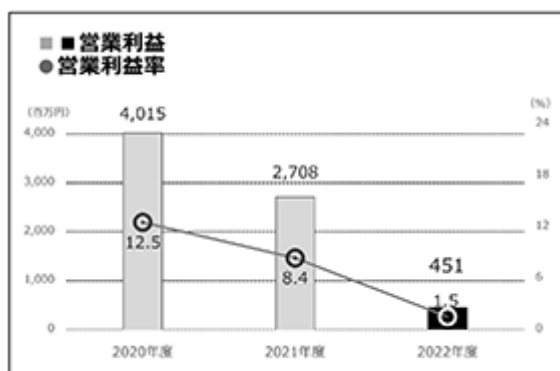
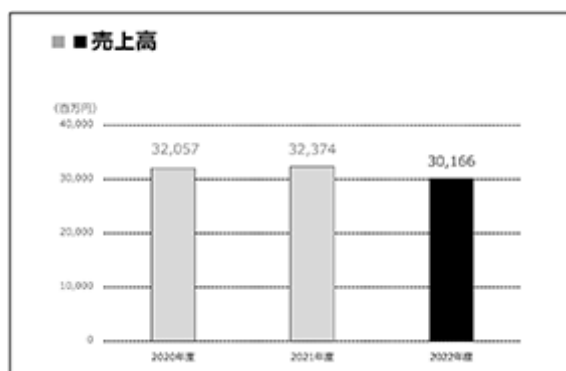
(1) 経営成績等の状況の概要

経営成績の状況

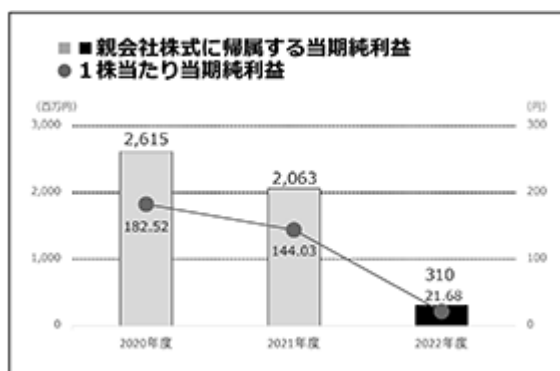
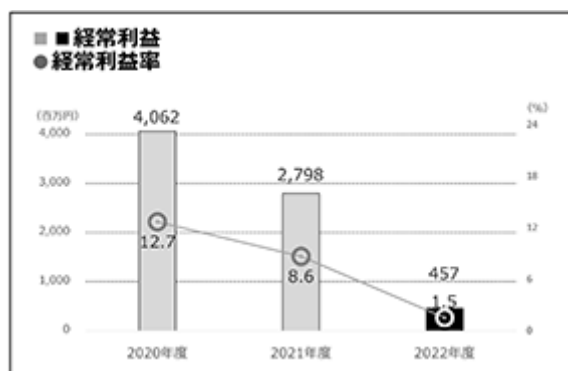
当連結会計年度における世界経済は、多くの国々でコロナ禍における経済活動の制限が緩和されたものの、ウクライナ情勢をはじめとする地政学リスクの高まり、中国のゼロコロナ政策によるロックダウン、資源・エネルギー価格をはじめとする世界的な物価の高騰、米国の銀行破綻に端を発した欧米の金融不安など、不安定な状況が続き、前年度と比較して成長が鈍化しました。

国内経済については、物価高騰が家計や企業収益を圧迫しているものの、個人消費や設備投資が増加するなど、景気は緩やかな回復の途上にあります。

この結果、当連結会計年度の当社グループの売上高は、原料価格の高騰に伴う販売価格の上昇はあったものの、樹脂原料やゴム薬品の減収により301億66百万円（前連結会計年度比22億7百万円、6.8%減）となりました。損益面におきましては、営業利益は4億51百万円（同22億57百万円、83.3%減）、経常利益は4億57百万円（同23億41百万円、83.6%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は3億10百万円（同17億53百万円、84.9%減）となりました。







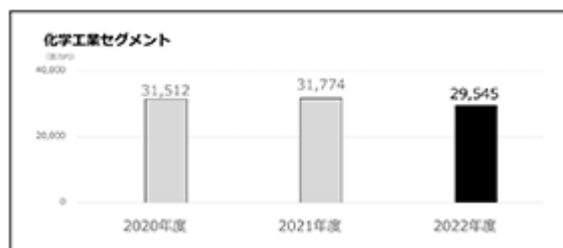
セグメント別の売上高の概況

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度		増 減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
精密化学品事業部	17,153	52.9	13,856	45.9	3,296	19.2
機能材事業部	3,807	11.8	3,285	10.9	522	13.7
樹脂添加剤事業部	10,813	33.4	12,403	41.1	1,590	14.7
化学工業セグメント	31,774	98.1	29,545	97.9	2,228	7.0
化学分析受託事業	599	1.9	620	2.1	21	3.6
合 計	32,374	100.0	30,166	100.0	2,207	6.8

(注)当連結会計年度より精密化学品部門は精密化学品事業部、機能材部門は機能材事業部となり、機能樹脂部門および化成品部門は樹脂添加剤事業部へと統合しております。また、従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。前年同期につきましては、変更後の数値で比較しております。

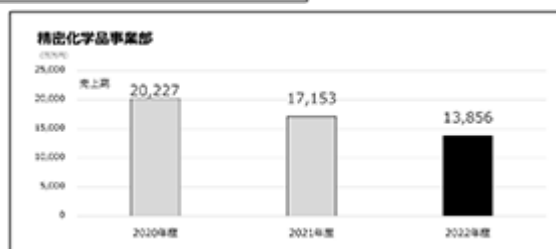
<化学工業セグメント>

当セグメントの売上高は、295億45百万円となり、前連結会計年度と比べて22億28百万円の減収となりました。



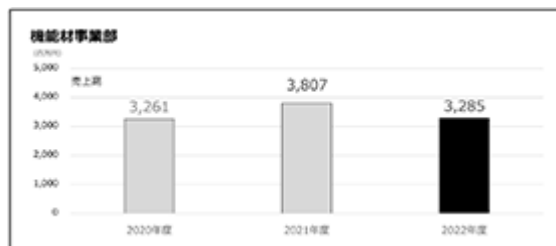
(精密化学品事業部)

原料価格の高騰に伴う販売価格の上昇はあったものの、樹脂原料や医薬中間体の出荷数量が減少したことにより、売上高は138億56百万円となり、前連結会計年度と比べて32億96百万円の減収となりました。



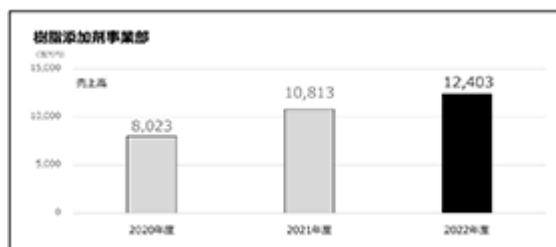
(機能材事業部)

接着剤およびゴム薬品ともに出荷数量が減少したことにより、売上高は32億85百万円となり、前連結会計年度と比べて5億22百万円の減収となりました。



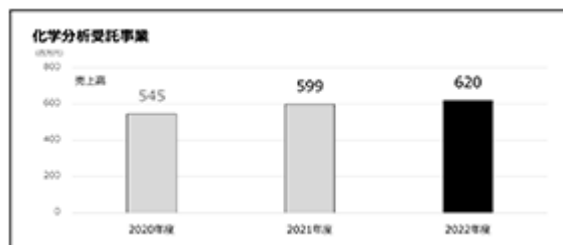
## (樹脂添加剤事業部)

中国でのワニス販売が通期で寄与したことや原料価格の高騰に伴う販売価格の上昇により、売上高は124億3百万円となり、前連結会計年度と比べて15億90百万円の増収となりました。



## &lt;化学分析受託事業セグメント&gt;

当セグメントの売上高は、石綿分析や危険物判定などが増加したことにより、6億20百万円となり、前連結会計年度と比べて21百万円の増収となりました。



## 財政状態の状況

## (資産)

流動資産は、前連結会計年度末と比べて15億92百万円減少し、162億44百万円となりました。主として原材料及び貯蔵品の増加を売掛金やその他に含まれる未収入金の減少が上回ったことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末と比べて2億43百万円増加し、148億24百万円となりました。これは、主として新多目的プラント(N-2)の設備追加取得による増加です。

この結果、当連結会計年度末の総資産額は310億69百万円となり、前連結会計年度末と比べて13億48百万円の減少となりました。

## (負債)

流動負債は、短期借入債務は増加したものの、買掛金やその他に含まれる設備関係未払金が減少したことから前連結会計年度末と比べて25億28百万円減少し、96億34百万円となりました。

固定負債は、前連結会計年度末と比べて13億58百万円増加し、48億64百万円となりました。これは、主として長期借入金の増加によるものです。

この結果、当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末と比べて11億70百万円減少し、144億98百万円となりました。

## (純資産)

当連結会計年度末の純資産額は、前連結会計年度末と比べて1億78百万円減少し、165億70百万円となりました。これは、主として親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余金の増加を配当の実施による減少が上回ったことによるものです。

## キャッシュ・フローの状況

区分	前連結会計年度	当連結会計年度	増減(百万円)
	金額(百万円)	金額(百万円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,329	1,478	2,807
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,075	4,339	2,264
財務活動によるキャッシュ・フロー	273	2,995	3,269
現金及び現金同等物に係る換算差額	17	0	17
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,660	134	3,795
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	49	-	49
現金及び現金同等物の期首残高	4,330	718	3,611
現金及び現金同等物の期末残高	718	853	134

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下、資金という)は、前連結会計年度に比べて1億34百万円増加し、8億53百万円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、14億78百万円の収入(前連結会計年度は13億29百万円の支出)となりました。主な収入は、売上債権の減少額16億51百万円、減価償却費14億62百万円、その他に含まれる未収入金等の減少による収入13億39百

万円、税金等調整前当期純利益 4 億78百万円、主な支出は、仕入債務の減少額24億98百万円、棚卸資産の増加額 6 億15百万円等であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、43億39百万円の支出(前連結会計年度は20億75百万円の支出)となりました。主なものは、有形固定資産取得による支出43億18百万円等であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、29億95百万円の収入(前連結会計年度は2億73百万円の支出)となりました。主なものは、長期借入れによる収入25億円、短期借入金の純増額15億91百万円、長期借入金の返済による支出5億70百万円、配当金の支払額5億15百万円等であります。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率
	金額(千円)	金額(千円)	(%)
精密化学品事業部	13,367,137	10,447,739	21.8
機能材事業部	3,448,561	2,504,886	27.4
樹脂添加剤事業部	10,178,262	10,200,527	0.2
化学工業セグメント	26,993,961	23,153,153	14.2
化学分析受託事業	-	-	-
合計	26,993,961	23,153,153	14.2

- (注) 1 金額は、販売価格で表示しております。  
 2 セグメント間の取引については、相殺消去しております。  
 3 当連結会計年度より精密化学品部門は精密化学品事業部、機能材部門は機能材事業部となり、機能樹脂部門および化成品部門は樹脂添加剤事業部へと統合しております。また、従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。前連結会計年度は変更後の数値で比較しております。

## b. 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。なお、化学工業セグメントは、受注生産は行っておりません。

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率
	金額(千円)	金額(千円)	(%)
化学分析受託事業			
受注高	600,961	624,179	3.9
受注残高	24,517	27,817	13.5

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。

## c. 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	前連結会計年度		当連結会計年度		増 減	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	増減率(%)
精密化学品事業部	17,153,164	52.9	13,856,744	45.9	3,296,420	19.2
機能材事業部	3,807,999	11.8	3,285,290	10.9	522,708	13.7
樹脂添加剤事業部	10,813,318	33.4	12,403,606	41.1	1,590,288	14.7
化学工業セグメント	31,774,482	98.1	29,545,642	97.9	2,228,840	7.0
化学分析受託事業	599,534	1.9	620,879	2.1	21,344	3.6
合 計	32,374,017	100.0	30,166,521	100.0	2,207,495	6.8

(注) 1 セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2 主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は以下の通りです。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
三菱瓦斯化学株式会社	11,242,878	34.7	7,652,354	25.4
住友化学株式会社	4,023,869	12.4	4,388,939	14.5
住友電工ウインテック株式会社	4,600,111	14.2	3,696,291	12.3

3 当連結会計年度より精密化学品部門は精密化学品事業部、機能材部門は機能材事業部となり、機能樹脂部門および化成部門は樹脂添加剤事業部へと統合しております。また、従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。前連結会計年度は変更後の数値で比較しております。

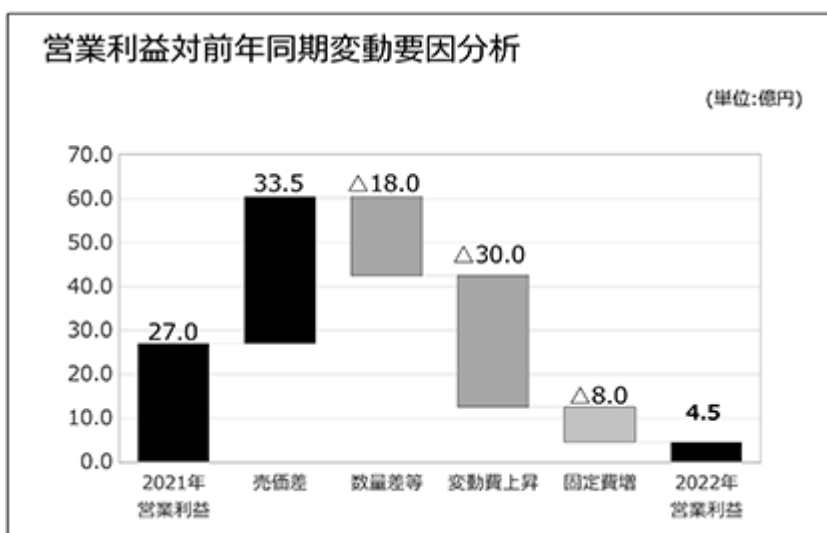
## (2) 経営者の視点における経営成績等の状況に関する分析・検討内容

本項においては、将来に関する事項が含まれていますが、当該事項は有価証券報告書提出日現在において判断したものです。

財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

## 経営成績

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	増 減 (百万円)	増減率 (%)
売上高	32,374	30,166	2,207	6.8
営業利益	2,708	451	2,257	83.3
経常利益	2,798	457	2,341	83.6
当期純利益	2,063	310	1,753	84.9



(売上高)

当連結会計年度の売上高は、ワニスの中国での販売の通期での寄与や原料価格の高騰に伴う販売価格の上昇があったものの、需要家等の在庫調整等により樹脂原料が大幅に減収となったほか、ゴム薬品や可塑剤の出荷数量の減少により、前連結会計年度に比べ22億7百万円の減収となり、301億66百万円となりました。

なお、販売価格の上昇により前連結会計年度に比べ売価差は約33億50百万円の増収となりましたが、数量面では約55億円の減収となりました。

(営業利益)

営業利益の主な増減要因は下記の通りです。なお、当社グループでは全社での営業利益分析を行っております。

当連結会計年度の営業利益は、販売価格の上昇での増益約33億50百万円があったものの、原料価格等の上昇による約30億円の減益、数量差による約18億円の減益、固定費の増加による約8億円の減益となり、結果として、前連結会計年度に比べ22億57百万円の減益の4億51百万円となりました。

(営業外損益)

当連結会計年度の営業外収益も、非連結子会社からの受取配当金や工場から産出される廃棄物の有価売却を行いました。受取補償金の減少により、前連結会計年度より40百万円減少の56百万円となりました。た。営業外費用は円安による為替差損の計上があったことなどから、前連結会計年度より43百万円増加の49百万円となりました。

(特別利益)

当連結会計年度の特別利益は、投資有価証券売却益26百万円を計上いたしました。これは政策保有株式の売却によるものです。

(特別損失)

当連結会計年度の特別損失は、経常的な固定資産の除却などをおこないましたが、固定資産除却損6百万円の計上にとどまり、前連結会計年度に比べ23百万円改善いたしました。

経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況

「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (2)中期経営計画」に記載の通りであります。

キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

(資本の財源及び資金の流動性に係る情報)

当社グループは、国内外における事業遂行のための設備投資計画等に照らして必要な長期資金を金融機関等からの借入により調達しております。また、短期的な運転資金は銀行借入による調達や自己資金を充当することとしております。調達にあたっては、必要な資金を適切な時期に過不足なく機動的に調達することを旨とし、資金の安定確保と金融費用の極小化を目指すこととしております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理については、当社は、年度毎に資金繰り計画を作成するとともに、資金繰り表を日々更新したり、銀行と当座貸越契約を締結することで管理しております。

資金の配分方針については、適正な手許現金および現金同等物の水準を定め、企業価値向上に資する資金の配分に努めており、水準を超える部分については、成長投資、株主還元等への原資といたします。

成長投資については、2022年度にスタートした中期経営計画の3ヶ年において100億円の設備投資を計画しております。これらの資金は、自己資金の充当や銀行借入により調達する予定としております。なお、2022年度の設備投資は17億47百万円となり、銀行借入による調達や自己資金を充当しております。

株主還元については、株主の皆様への利益還元を重要な経営方針として位置づけ、財務体質の強化と今後の事業展開への対応を図るために必要な内部留保を確保しつつも、安定配当を実施していくことを基本方針としております。当社の配当政策については、「第4 提出会社の状況 3 配当政策」をご確認ください。

(キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容)

当連結会計年度における当社グループのフリー・キャッシュ・フロー(営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローの合計)は、28億61百万円の支出となりました。財務キャッシュ・フローでは、配当金の支払いや長期借入金の返済などを行った一方、新規の長期借入金の調達25億円を行いました。結果として、現金及び預金は8億53百万円となりました。また、流動比率は(流動資産/流動負債)は、168.6%であります。

なお、有価証券報告書提出日現在においては、新型コロナウイルス感染症の影響を限定的なものとして見込んでおり、今後の資金繰りにおいて大きな影響を与えるものでないと考えております。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、過去の実績や当連結会計年度の状況に応じて合理的に考えられる方法に基づき、貸倒引当金、賞与引当金、退職給付に係る負債、繰延税金資産等に関する見積りおよび判断を行っております。これら見積り等については、見積り特有の不確実性を伴うため、実際の結果は見積りと異なる場合がございます。当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、第5〔経理の状況〕の連結財務諸表の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しております。また、以下の会計上の見積りについては、経営者の判断が、財政状態および経営成績に重要な影響を及ぼすと考えております。なお、当連結会計年度末において新型コロナウイルス感染症の影響を限定的なものとして仮定し見積りを行っており、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないと考えております。

(繰延税金資産)

繰延税金資産の回収可能性は、将来の税金負担額を軽減する効果を有するかどうかで判断しております。当該判断は、収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の十分性、タックス・プランニングに基づく一時差異等加減算前課税所得の十分性および将来加算一時差異の十分性のいずれかを満たしているかどうかにより判断しております。収益力に基づく一時差異等加減算前課税所得の十分性を判断するにあたっては、一時差異等の解消見込年度および繰戻・繰越期間における課税所得を見積っております。当該見積りおよび当該仮定について、将来の不確実な経済条件の変動等の見直しが必要となった場合、認識する繰延税金資産および法人税等調整額の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(固定資産の減損損失)

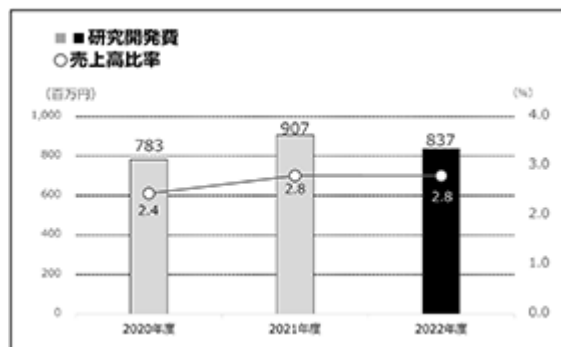
当社グループは、投資の決定単位である各社の事業別に資産のグルーピングを行っており、遊休資産等については、個々の資産を1つの単位として資産のグルーピングを行っております。減損の兆候がある資産グループについては、当該資産グループから得られる割引前キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。減損の兆候の把握、減損損失の認識および測定に当たっては慎重に検討しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積り額の前提とした条件や仮定に変更が生じた場合、追加の減損損失が発生する可能性があります。

## 5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6 【研究開発活動】

当社グループは、高い研究開発力を活かし、既存事業の拡大・発展とともに新規事業創出に取り組んでおります。新規事業に関しては、当連結会計年度において、新たに研究所内にNEXT事業開発・IP戦略部を創設し、マーケティング活動を強化するとともに、当社の強みを活かした新たな事業開発を推進します。



セグメントごとの研究開発活動を示すと、次のとおりであります。なお、従来、「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。

### <化学工業セグメント>

当連結会計年度の化学工業セグメントの研究開発トピックスは、下記の通りとなります。

光学レンズ用樹脂モノマーに関しては、開発品に関して着色の少ない新規製法を開発し、顧客から高評価を得ました。

ワニスに関しては、中国での製造が本格化し、新たなグレード開発にも鋭意取り組んでおります。可塑剤に関しては、生分解性樹脂製品の伸長を睨んで、生分解性可塑剤の開発に注力しており、いくつか開発品を作成し顧客に評価していただいております。

瞬間接着剤、エポキシ系接着剤、ゴム用添加剤に関しては、それぞれグローバルニーズに視点を置いた新規品目の開発を行っており、海外マーケットの開拓も合わせて取り組んでおります。

グラフェンナノリボンに関しては、量産化製法を開発すると共に、類似の炭素系材料への応用展開も実施中であり、他社へのサンプル提供を開始しました。

当連結会計年度末における化学工業セグメントの研究開発人員は59名であり、研究開発費は837百万円であります。

### <化学分析受託事業セグメント>

特記事項はありません。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度は、化学工業セグメントを中心に1,747百万円の設備投資を実施いたしました。その主なものは、播磨工場の多目的プラント（N-2）の設備追加取得であります。

#### 2 【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

2023年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
淀川工場 (大阪市淀川区)	化学工業	生産設備	941,627	1,755,654	773,619 (33,601)	277,040	3,747,941	127
研究所 (大阪市淀川区、 大阪市此花区 * 3)	化学工業	その他設備	50,785	263	* 1	209,780	260,829	63
本社 * 4 (大阪市淀川区) * 3	化学工業	その他設備	463,437	1,731	* 1	328,650	793,819	49
播磨工場(播磨地区) (兵庫県加古郡播磨町)	化学工業	生産設備等	2,011,080	1,621,394	435,284 (38,187)	4,465,962	8,533,722	127
播磨工場(愛媛地区) (愛媛県新居浜市)	化学工業	生産設備	23,617	22,950	* 2 [1,128]	487	47,055	5
営業本部東京支店 (東京都中央区) * 3	化学工業	その他設備	2,396	-	-	599	2,996	15

##### (2) 国内子会社

2023年3月31日現在

子会社事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
株式会社田岡化学分析センター (大阪市淀川区、 兵庫県加古郡播磨町)	化学分析受 託事業	その他設備	- (16,022)	- (0)	* 5	- (127,756)	- (143,779)	38

##### (3) 在外子会社

2023年3月31日現在

子会社事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
タオカ ケミカル インド プライベート リミテッド (インド共和国チェンナイ市)	化学工業	生産設備	916	9,458	* 2 [9,575]	136,481	146,856	30
田岡化工材料(上海)有限公司 (中華人民共和国上海市) * 3	化学工業	その他設備	-	-	-	300	300	4

(注) 1 現在休止中の主要な設備はありません。

2 帳簿価額のうち「その他」は、リース資産ならびに工具、器具及び備品および建設仮勘定の合計であります。

3 国内子会社の帳簿価額のうち、( )は、提出会社からの借用資産で外数で記載しております。

4 平均臨時雇用者数は、臨時従業員の総数が従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。

5 \* 1の土地は提出会社の淀川工場に含んでおります。

6 \* 2は借地であり、賃借している土地の面積は[]で外書きしております。

7 \* 3は建物を賃借しております。

8 \* 4は淀川工場・研究所の本社管轄の設備を含んでおります。

9 \* 5の土地は提出会社の淀川工場および播磨工場(播磨地区)に含んでおります。



### 3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2023年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年6月22日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	14,440,000	14,440,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株 であります。
計	14,440,000	14,440,000	-	-

#### (2) 【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年10月1日(注)	11,552	14,440	-	1,572,000	-	1,008,755

(注) 2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行ったことによるものであります。

#### (5) 【所有者別状況】

2023年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	6	19	95	36	14	3,615	3,785	-
所有株式数 (単元)	-	3,858	517	84,162	7,830	155	47,780	144,302	9,800
所有株式数の 割合(%)	-	2.67	0.36	58.32	5.43	0.11	33.11	100.00	-

(注) 自己株式111,140株は、「個人その他」に1,111単元、「単元未満株式の状況」に40株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2023年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
住友化学株式会社	東京都中央区日本橋二丁目7番1号	7,247	50.58
テックス・テクノロジー株式会社	東京都千代田区神田和泉町一丁目1番16号	690	4.82
NORTHERN TRUST GLOBAL SERVICES SE, LUXEMBOURG RE CLIENTS NON- TREATY ACCOUNT (常任代理人 香港上海銀行東京 支店カスタディ業務部)	10 RUE DU CHATEAU D'EAUL-3364 LEUDELANGE GRAND DUCHY OF LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋三丁目11 番1号)	303	2.12
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	190	1.33
田岡従業員持株会	大阪市淀川区西三国四丁目2番11号	169	1.18
増谷 行紀	和歌山県紀の川市	142	0.99
株式会社日本カスタディ銀行(信 託口)	東京都中央区晴海一丁目8番12号	138	0.97
糺 英夫	京都府京都市上京区	100	0.70
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL (常任代理人 ゴールドマン・ サックス証券株式会社)	PLUMTREE COURT, 25 SHOE LANE, LONDON EC4A 4AU, U.K. (東京都港区六本木六丁目10番1号)	91	0.64
大橋 英次	愛知県岡崎市	74	0.52
計	-	9,147	63.84

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式 111千株があります。

2 2022年6月3日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書No. 1において、野村證券株式  
会社およびその共同保有者であるノムラ インターナショナル ピーエルシー (NOMURA INTERNATIONAL  
PLC) ならびに野村アセットマネジメント株式会社が2022年5月31日現在で以下の株式を所有している旨が  
記載されているものの、当社としては2023年3月31日現在の実質所有株式数の確認ができませんので、上記  
大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下の通りであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋一丁目13番1号	5	0.04
ノムラ インターナショナル ピーエルシー (NOMURA INTERNATIONAL PLC)	1 Angel Lane, London EC4R 3AB, United Kingdom	29	0.20
野村アセットマネジメント株式 会社	東京都江東区豊洲二丁目2番1号	461	3.19

(7) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 111,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,319,100	143,191	-
単元未満株式	普通株式 9,800	-	-
発行済株式総数	14,440,000	-	-
総株主の議決権	-	143,191	-

(注)「単元未満株式」の株式数には当社所有の自己株式40株が含まれております。

## 【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 田岡化学工業株式会社	大阪市淀川区 西三国四丁目2番11号	111,100	-	111,100	0.77
計	-	111,100	-	111,100	0.77

## 2 【自己株式の取得等の状況】

## 【株式の種類等】 普通株式

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、 会社分割に係る移転を行った 取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	111,140		111,140	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2023年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含まれておりません。



## (イ) 企業統治の体制の概要

当社は監査等委員会設置会社であり、監査等委員である取締役4名のうち3名が社外取締役であります。現在の経営体制は、本報告書提出日現在で監査等委員以外の取締役8名(うち社外取締役1名)および監査等委員である取締役4名(うち3名社外取締役)であります。

	回数 (2022年度)	
取締役会	13回	構成員：取締役12名(うち社外取締役4名)開催頻度：原則月1回 法令、定款、取締役会規程に基づき、経営方針、事業戦略、経営上の重要事項を決定するとともに、各取締役などから職務執行状況、財務・業績報告を受け、取締役および各部署の職務執行を監督しています。
経営会議	23回	構成員：常勤取締役7名開催頻度：原則月2回 経営会議規則に基づき、予算、経営計画、起業計画等、経営上重要な事項の審議を行っています。
監査等委員会	13回	構成員：取締役(監査等委員)4名(うち社外取締役3名)開催頻度：原則月1回 監査等委員会規則に基づき、監査に関する重要な事項について、報告、協議・審議・決議しています。
役員指名諮問委員会	1回	構成員：取締役社長、取締役(監査等委員) 代表取締役が人選した取締役候補者について、代表取締役および取締役会に適切な助言を行っています。
役員報酬諮問委員会	1回	構成員：取締役社長、取締役(監査等委員) 取締役(監査等委員を除く)の報酬について審議し、代表取締役および取締役会に対し、答申しています。取締役会(監査等委員)の報酬に関して審議しています。
社外役員間審議委員会	0回	構成員：社外取締役 親会社グループと当社グループとの間の利益相反する事項が含まれる場合に、取締役会より諮問を受け、少数株主利益の保護の観点から審議し、意見を決議の上、取締役会にて報告します。なお、2022年度については該当する事案がありませんでした。
サステナビリティ委員会	1回	取締役会のもと、当社のサステナビリティに関わる施策を立案・推進しています。また、サステナビリティに関わる各委員会を統括しています。
内部統制委員会	3回	当社グループにおける内部統制システムの不断の充実を図るため、内部統制システムに関する諸施策を審議し、その実施状況を監督しています。
コンプライアンス委員会	2回	当社グループコンプライアンス方針および活動計画の報告・審議、内部通報への対応等を行っています。
リスク・クライシスマネジメント委員会	1回	大規模災害、パンデミック、治安悪化、その他複数の事業所もしくは部署にまたがる個別のリスク・クライシスの対処方針等を審議しています。
レスポンシブル・ケア委員会	1回	レスポンシブル・ケア基本方針や長期計画、具体施策の策定等を行い、レスポンシブル・ケア活動を長期的視野から総合的に推進しています。

機関ごとの構成員は次の通りであります。( ○は議長もしくは委員長、○は委員を表す。)

役職名 氏名	取締役 会	経営会 議 (注1)	役員指 名諮問 委員会	役員報 酬諮問 委員会	社外役 員間審 議委員 会 (注2)	監査等 委員会	サステ ナビリ ティ委 員会	内部統 制委員 会	コンプ ライア ンス委 員会	リス ク・ク ライシ スマネ ジメン ト委員 会	レスポ ンシブル・ケ ア委員 会
取締役社長 (代表取締役) 佐々木 康彰											
取締役副社長 岩崎 明	○										
取締役 松尾 俊二	○										
取締役 伊美 勝治	○										
取締役 伊瀬 基之	○										
取締役 岡嶋 謙	○										
取締役 向井 宏好	○										
取締役 田辺 陽	○				○						
取締役 (監査等委員) 乾 禄治	○						(注3)	(注3)		(注3)	(注3)
取締役 (監査等委員) 小西 弘之	○										
取締役 (監査等委員) 藤咲 雄司	○										
取締役 (監査等委員) 矢倉 昌子	○										

(注1) 「経営会議」は、当社の経営上の重要な事項を審議することが目的であるため、議長もしくは委員長はおりません。

(注2) 「社外役員間審議委員会」の委員長は、社外取締役の互選により決定されます。

(注3) 「オブザーバー」として出席しております。

#### (口) 当該体制を採用する理由

当社は、変化する社会・経済情勢の下、株主の皆様を中心とした様々なステークホルダーの利益に適うようにすることが、コーポレート・ガバナンスの基本であると認識しており、これを実現するため、上記体制を採用しております。今後もより一層のコーポレート・ガバナンスの充実に向け、重要な意思決定の迅速化、コンプライアンス体制および内部統制の充実・強化に取り組んでいく所存であります。

#### 企業統治に関するその他の事項

##### (イ) 内部統制システムの整備の状況

(当社および当社グループ会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制)

取締役は、法令および定款ならびに株主総会の決議を遵守し、取締役が負うべき善良な管理者としての注意を払う義務および忠実にその職務を行う義務を負います。取締役会は、取締役会において決定した「内部統制システムの整備に関する基本方針」に従い、当社および当社グループ会社の取締役が適切に「内部統制システム」を構築し、それを運用しているかを監督する義務を負います。当社は、金融商品取引法に定める財務報告の信頼性および適正性を確保するため、内部統制報告制度を構築するとともに、内部統制全般を統括する委員会を設置して、当社グループ会社を含めた財務報告に係る内部統制システムの適切な運営を図ります。当社は、「コンプライアンス規程」に基づき、コンプライアンスに関する教育を行うなど、当社および当社グループ会社の取締役および従業員の遵法意識の徹底、健全な企業風土の醸成に努めます。当社は、コンプライアンスを統括する委員会を設置して、当社および当社グループ会社のコンプライアンスの状況を調査・監督し、必要なときは改善を勧告します。当社は、コンプライアンス違反やそのおそれがある場合の通報を受け付けるための内部通報窓口を設置して、事態の迅速な把握と是正に努めます。当社は、内部監査部署を設置し、当社および当社グループ会社の事業遂行上の業務の適正、有効性を検証します。

( 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制 )

当社は、文書（電磁的方法により記録したものを含む。）の保存期間、管理の方法その他についての規程を策定し、当該規程に従い適切に保存および管理します。

( 当社および当社グループ会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制 )

取締役会は、当社および当社グループ会社から成る企業集団の事業の方針、事業計画、経理・財務、研究・開発等に関する重要事項について、目標を適切に定め、また、それらの進捗を管理します。

取締役は、取締役会が決定した経営戦略に基づき、担当業務における具体的目標および効率的な達成の方法を定めております。

当社は、取締役で構成する経営会議を原則月 2 回開催し、経営上重要な事項について審議を行い、業務執行に関する重要な事項については取締役会に付議します。

取締役は、IT等を活用した当社および当社グループ会社から成る企業集団の経営情報システムを構築して、経営情報の迅速かつ適正な把握に努めます。

( ロ ) リスク管理体制の整備の状況

当社は、当社および当社グループ会社の損失の危険（以下、「リスク」という）に関する意識の浸透、その早期発見および顕在化の未然防止、緊急事態発生時の対応策の整備等に積極的に取り組んでいくこととし、各部門所管業務に付随するリスク対応についてはそれぞれの担当部署にて行い、組織横断的リスク状況の監視ならびに全社対応は総務人事室が行うものとします。

当社は、当社および当社グループ会社の全社的なリスクマネジメントを統括する委員会を設置して、リスクマネジメントに関する方針を定めるとともに、各部署のリスクマネジメントに関する計画の立案・実行を支援します。

( ハ ) 子会社の業務の適正を確保するための体制の整備状況

当社は、当社のグループ会社で構成する企業集団が共有または相互に認識したグループ戦略のもとで事業遂行を図り、かつ、企業集団における業務の適正性を確保するため、グループ運営に関連する規程の整備や役員等の派遣を通じて連結経営を推進しております。

当社は、国内外の主要な子会社に対して、当社と同等のコンプライアンス体制を導入するよう求めております。当社の内部監査部署は、定期的の子会社の内部監査を実施し、取締役から報告を受けることにより事業遂行上の業務およびその管理監督の状況とその正否および適否を検査しております。それにより当該子会社の不正または錯誤の発生を予防し、かつ、経営の改善に資するものとしております。

( ニ ) 責任限定契約の状況

当社は、各取締役（業務執行取締役であるものを除く）との間に、会社法第423条第 1 項に定める損害賠償責任を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は会社法第425条第 1 項に定める金額としております。

( ホ ) 役員等賠償責任保険契約

当社は、当社取締役を被保険者として、役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うことまたは当該責任の追及に係る請求を受けることによって生じうる損害を当該保険により填補することとしております。ただし、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は補償対象外とすることにしており、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じております。

( ヘ ) 取締役の定数

当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）は10名以内、監査等委員である取締役は 5 名以内とする旨を定款で定めております。

( ト ) 取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の 3 分の 1 以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨およびその選任決議は累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

( チ ) 株主総会決議事項を取締役会で決議できることとした事項

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能にするため、剰余金の配当等会社法第459条第 1 項各号に定める事項については、法令に特段の定めがある場合を除き、取締役会決議によって定めることとする旨を定款で定めております。

( リ ) 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第 2 項に定める特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の



3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(ヌ) 支配株主との取引等を行う際における少数株主の保護の方策に関する指針

当社は、事業運営にあたっては、独自の経営判断と自己責任で自主的な経営を行うことを基本方針としています。住友化学グループとの取引条件については、市場価格、総原価を勘案して每期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しています。また、親子上場会社間の取引のガバナンス強化に鑑み、2020年3月に社外取締役から構成される社外役員間審議委員会を設置し、取締役会決議事項のうち、親会社グループと当社グループ間で利益相反が含まれる場合、取締役会は、当該委員会に諮問し、その審議の結果の報告を受けることと致しました。

取締役会の活動状況

当事業年度において当社は取締役会を原則月1回開催しており、個々の取締役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
佐々木 康彰	13回	13回
田岡 信夫	13回	12回
池添 肇	13回	13回
松尾 俊二	13回	13回
伊美 勝治	10回	10回
伊瀬 基之	10回	10回
岩崎 明	13回	13回
田辺 陽	13回	13回
乾 禄治	10回	10回
小西 弘之	13回	13回
藤咲 雄司	13回	13回
矢倉 昌子	13回	13回
日置 毅	3回	3回
山下 雅也	3回	3回
岡田 薫	3回	3回

取締役会における具体的な検討内容は、株主総会に関する事項（株主総会の招集および議案等、株主総会の議長順序）、取締役に係る事項（代表取締役の選定、役付取締役の選定、取締役の分担業務）、組織及び人事に関する事項（理事、部長職以上の人事）、経理・財務に関する事項（事業報告、計算書類等の承認、剰余金の処分、各四半期決算、関係会社の債務保証）、事業の方針および事業計画に関する事項（年度予算、合併会社設立等）、重要な対外公表に関する事項、内部統制システムの整備に関する事項、その他業務執行に関する重要な事項（サステナビリティ、改正法令への対応）等であります。

役員指名諮問委員会の活動状況

当事業年度において当社は指名委員会（役員指名諮問委員会）を年1回開催しており、個々の指名委員の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
佐々木 康彰	1回	1回
乾 禄治	1回	1回
小西 弘之	1回	1回
藤咲 雄司	1回	1回
矢倉 昌子	1回	1回

指名委員会（役員指名諮問委員会）における具体的な検討内容は、代表取締役が人選した取締役候補者およびその選任理由であります。

## 役員報酬諮問委員会の活動状況

当事業年度において当社は報酬委員会（役員報酬諮問委員会）を年1回開催しており、個々の報酬委員の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数
佐々木 康彰	1回	1回
乾 祿治	1回	1回
小西 弘之	1回	1回
藤咲 雄司	1回	1回
矢倉 昌子	1回	1回

報酬委員会（役員報酬諮問委員会）における具体的な検討内容は、役割報酬制度、役員報酬支給水準および基本報酬と業績連動報酬等の割合の考え方等であります。

## (2) 【役員状況】

## 役員一覧

男性11名 女性1名 （役員のうち女性の比率8%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役社長 (代表取締役)	佐々木 康彰	1962年5月28日	1985年4月 住友化学工業株式会社（現 住友化学株式会社）入社 2011年2月 同社技術・経営企画室部長（中国戦略） 2012年1月 住化電子材料科技（無錫）有限公司出向、住化電子材料科技（上海）有限公司出向、住化電子管理（上海）有限公司出向 2015年4月 住友化学株式会社人事部長 2016年4月 同社執行役員 人事部、大阪管理部担当 人事部長 2018年4月 同社執行役員 内部統制・監査部、人事部、大阪管理部 担当 2019年4月 同社執行役員 無機材料事業部、機能樹脂事業部 担当 2020年4月 同社常務執行役員 無機材料事業部、機能樹脂事業部 担当 2021年4月 当社顧問 2021年6月 取締役社長（現）	(注)2	9,400
取締役副社長 事業支援室長	岩崎 明	1964年12月18日	1987年4月 住友化学工業株式会社（現 住友化学株式会社）入社 2012年8月 同社石油化学業務室部長 2013年4月 同社技術・経営企画室部長 2015年9月 同社技術・経営企画室部長、アジア事業室長 2016年4月 同社経営管理部長 2018年4月 同社執行役員 2019年6月 当社取締役 2023年4月 取締役 特命事項担当 2023年6月 取締役副社長、事業支援室長（現）	(注)2	-
取締役 営業本部長、営業本部東京支店長、精密化学品事業部長、機能材事業部長	松尾 俊二	1965年8月31日	1988年4月 当社入社 2011年4月 事業支援室部長（査業） 2011年11月 事業支援室部長（査業）、事業支援室部長（企画） 2018年7月 理事 事業支援室部長（査業）、事業支援室部長（企画） 2019年7月 理事 事業支援室長付（中国プロジェクト担当）、事業支援室部長（査業）、事業支援室部長（企画） 2019年10月 理事 田岡化工材料（上海）有限公司出向 2021年6月 取締役 2022年6月 取締役 営業本部精密化学品事業部長、機能材事業部長 2022年6月 取締役 営業本部長、営業本部東京支店長、精密化学品事業部長、機能材事業部長（現） 他の会社の代表状況 タオカケミカル インドプライベート リミテッド 社長 田岡化工材料（上海）有限公司 董事長	(注)2	4,400

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役 技術本部長、 研究所統括	伊美 勝治	1963年2月22日	1987年4月 住友化学工業株式会社(現 住友化学株式会社)入社 2012年4月 同社基礎化学業務室部長 2015年4月 同社エネルギー・機能材料業務室部長 2021年10月 当社理事 技術本部副本部長、技術本部レスポンス・ケア室長 2022年6月 取締役 技術本部長、研究所統括(現)	(注)2	1,100
取締役 生産本部長	伊瀬 基之	1962年3月21日	1985年3月 当社入社 2011年4月 生産本部淀川工場製造部長 2013年4月 生産本部播磨工場製造部長 2018年7月 理事 生産本部播磨工場副工場長 2019年1月 理事 技術本部技術室長、生産本部播磨工場副工場長 2019年2月 理事 技術本部技術室長、技術室部長、生産本部播磨工場副工場長 2019年4月 理事 技術本部技術室長、技術室部長(淀川) 2022年5月 理事 生産本部淀川工場長 2022年6月 取締役 生産本部長、生産本部淀川工場長 2023年5月 取締役 生産本部長(現)	(注)2	6,000
取締役 総務人事室長、 内部統制・監査 部統括	岡嶋 謙	1965年8月4日	1990年4月 住友化学工業株式会社(現住友化学株式会社)入社 1996年9月 同社労働組合専従 2014年10月 同社人事部主席部員 2019年7月 同社千葉工場総務部長 2023年5月 当社総務人事室長 2023年6月 取締役 総務人事室長、内部統制・監査部統括(現)	(注)2	-
取締役	向井 宏好	1966年10月3日	1989年4月 住友化学工業株式会社(現住友化学株式会社)入社 2013年4月 ベーラント U.S.A コーポレーション 出向、ベーラントバイオサイエンス コーポレーション 出向 2017年4月 同社国際アグロ事業部事業企画部長 2019年4月 同社健康・農業関連事業業務室部長 2020年4月 同社執行役員 健康・農業関連事業業務室、健康・農業関連事業品質保証室担当、健康・農業関連事業業務室部長 2022年4月 同社執行役員 健康・農業関連事業業務室、健康・農業関連事業品質保証室担当 2023年4月 同社執行役員 エネルギー・機能材料業務室、エネルギー・機能材料品質保証室担当(現) 2023年6月 当社取締役(現)	(注)2	-
取締役	田辺 陽	1955年2月7日	1991年4月 関西学院大学 理学部化学科 助教授 1997年4月 関西学院大学 理学部化学科 教授 2001年4月 関西学院大学 理工学部化学科 教授(学部改組) 2020年6月 当社取締役(現) 2021年4月 関西学院大学 理学部化学科 教授(学部改組) 2023年4月 関西学院大学 理学部 名誉教授(現)	(注)2	-
取締役 (監査等委員)	乾 禄治	1962年9月26日	1986年4月 住友化学工業株式会社(現住友化学株式会社)入社 2011年8月 同社愛媛工場業務部長 2013年6月 住友化学シンガポール株式会社出向 2017年4月 日本メジフィジックス株式会社執行役員 2022年4月 当社顧問 2022年6月 取締役(監査等委員)(現)	(注)4	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役 (監査等委員)	小西 弘之	1953年2月21日	1976年4月 国税庁大阪国税局入局 2006年7月 阿倍野税務署長 2007年7月 大阪国税局調査第一部調査総括課長 2009年7月 東淀川税務署長 2011年7月 大阪国税局調査第二部次長 2012年7月 下京税務署長 2013年7月 国税庁退官 2013年8月 小西弘之税理士事務所開設(現) 2017年6月 当社取締役(監査等委員)(現)	(注)3	-
取締役 (監査等委員)	藤咲 雄司	1950年9月7日	1974年4月 株式会社住友銀行(現株式会社三井住友銀行)入行 2002年6月 同行本店営業第八部長 2003年6月 同行融資第一部長 2005年9月 株式会社住友倉庫 事業推進部長 2006年6月 同社執行役員 2010年10月 天馬株式会社 執行役員 2011年6月 同社常勤監査役 2013年4月 同社常務執行役員 2014年4月 同社社長執行役員 2014年6月 同社代表取締役社長 2016年6月 同社取締役副会長 2018年4月 株式会社インバウンドテック社外取締役(現) 2020年6月 当社取締役(監査等委員)(現)	(注)4	-
取締役 (監査等委員)	矢倉 昌子	1960年3月22日	1987年4月 大阪弁護士会登録 2000年4月 アスカ法律事務所開設(現) 2013年4月 大阪弁護士会副会長、日本弁護士連合会理事(～2014年3月) 2016年4月 大阪弁護士会男女共同参画推進本部本部長代行(～2018年3月) 2020年6月 当社取締役(監査等委員)(現) 2021年1月 神東塗料株式会社 社外取締役(現) 2022年4月 日本弁護士連合会副会長(～2023年3月)	(注)4	-
計					20,900

- (注) 1 取締役田辺 陽氏、小西 弘之氏、藤咲 雄司氏および矢倉 昌子氏は、社外取締役であります。  
2 2023年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から1年間。  
3 2023年6月22日開催の定時株主総会の終結の時から2年間。  
4 2022年6月24日開催の定時株主総会の終結の時から2年間。  
5 取締役のスキルマトリックスは以下のとおりです。なお、下記一覧表は、各人が保有する専門性と経験のうち主なものを最大3つに印をつけております。そのため、各人が有する全ての専門性と経験を表すものではありません。

氏名	企業経営	財務会計	事業戦略、マーケティング	労務、人材開発	研究、知財	製造、技術	グローバル	法務、ガバナンス、リスクマネジメント	独立社外取締役*	女性*
佐々木 康彰										
岩崎 明							○			
松尾 俊二										
伊美 勝治										
伊瀬 基之										
岡嶋 謙										
向井 宏好			○							
田辺 陽									*	
乾 禄治										
小西 弘之									*	
藤咲 雄司									*	
矢倉 昌子									*	*

## 社外役員の状況

## (イ) 社外取締役の状況

社外取締役は以下の4名であります。

氏名	提出会社との人的関係、資本的關係又は取引關係その他の利害關係、企業統治において果たす機能および役割
田辺 陽	<p>同氏には、有機合成化学の研究者として、これまで培ってきた専門的見識と豊富な経験を活かし、引き続き当社の経営に有益な助言をいただくため、社外取締役として就任していただいております。</p> <p>同氏は、中立・公正な立場を保持しており、当社の一般株主との間で利益相反を生じるおそれはないものと判断し、株式会社東京証券取引所の定めに基づく「独立役員」として同取引所に届け出ております。</p> <p>同氏と当社との間に特別な利害關係はございません。</p>
小西 弘之	<p>同氏は、税理士としての豊富な経験と幅広い見識を有しておられ、引き続き当社において、主に税務、財務および会計の側面でご指導いただくため、社外取締役として就任していただいております。</p> <p>同氏は、中立・公正な立場を保持しており、当社の一般株主との間で利益相反を生じるおそれはないものと判断し、株式会社東京証券取引所の定めに基づく「独立役員」として同取引所に届け出ております。</p> <p>同氏と当社との間に特別な利害關係はございません。</p>
藤咲 雄司	<p>同氏は、経営者および監査役としての豊富な経験と幅広い見識を活かしていただくため、社外取締役として就任していただいております。</p> <p>同氏は、中立・公正な立場を保持しており、当社の一般株主との間で利益相反を生じるおそれはないものと判断し、株式会社東京証券取引所の定めに基づく「独立役員」として同取引所に届け出ております。</p> <p>同氏と当社との間に特別な利害關係はございません。</p>
矢倉 昌子	<p>同氏は、長年にわたる弁護士としての専門的知識と豊富な経験を活かしていただくため、社外取締役として就任していただくことにしております。</p> <p>同氏は、中立・公正な立場を保持しており、当社の一般株主との間で利益相反を生じるおそれはないものと判断し、株式会社東京証券取引所の定めに基づく「独立役員」として同取引所に届け出ております。</p> <p>同氏と当社との間に特別な利害關係はございません。</p>

当社は、経営の客観性・中立性を確保するため、社外取締役を4名選任しております。また、監査等委員会を構成する監査等委員である取締役のうち3名を社外取締役とし、会社経営の健全性はもとより、効率性の面についても有益な意見をいただくこととしており、さらにその意見を業務執行に活かすことで、取締役会の監督機能を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

## (ロ) 社外取締役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準

## 「独立役員に関する基準」

- 1 本基準は、当社が、当社の社外役員を、国内各証券取引所の有価証券上場規程に規定する「独立役員」に指定するにあたっての要件を定めるものといたします。
- 2 以下の(1)ないし(11)に定める要件のいずれにも該当しない場合は、原則として、当社と重大な利害関係がないものとみなし、独立役員に指定することができるものといたします。
  - (1) 当社および当社グループ会社の業務執行者（業務執行取締役および従業員（名称の如何を問わず当社および当社グループ会社と雇用関係にある者））
  - (2) 次のいずれかに該当する者
    - (ア) 当社の親会社（住友化学株式会社）の業務執行者または業務執行者でない取締役
    - (イ) 当社の兄弟会社（住友化学株式会社を親会社とする他の会社）の業務執行者
  - (3) 当社の主要な顧客・取引先の業務執行者。主要な顧客・取引先とは、次のいずれかに該当する者をいう。
    - (ア) 当社に製品またはサービスを提供している取引先、あるいは当社が製品またはサービスを提供している取引先のうち、独立役員に指定しようとする直近の事業年度1年間の取引総額が、当社単体売上高の2%を超える者または当社への売上高が2%を超える者
    - (イ) 当社が借入を行っている金融機関のうち、独立役員に指定しようとする直近の事業年度末における借入総額が、当社単体借入総額の2%を超える者。ただし、2%以下であっても、有価証券報告書、事業報告等の対外公表文書に借入先として記載している金融機関は主要な取引先に含める。
  - (4) 当社から役員報酬以外の報酬を得ているコンサルタント、公認会計士、弁護士等の専門家のうち、独立役員に指定しようとする直近の事業年度における当社からの役員報酬以外の報酬支払総額が1,000万円を超える者。ただし、1,000万円以下であっても、該当者の年収の50%を超える場合は、多額の報酬を得ているものとして取り扱う。
  - (5) 当社と取引のあるコンサルティング・ファーム、税理士法人、法律事務所等の法人もしくは組合等の団体のうち、独立役員に指定しようとする直近の事業年度における当社への売上高が2%もしくは1,000万円のいずれか高い方を超える団体に所属する者
  - (6) 当社の株主のうち、独立役員に指定しようとする直近の事業年度末における議決権保有比率が総議決権の10%以上（直接保有および間接保有の合算比率）である者またはその業務執行者
  - (7) 当社が株式を保有している会社のうち、独立役員に指定しようとする直近の事業年度末における議決権保有比率が総議決権の10%以上（直接保有および間接保有の合算比率）である会社の業務執行者
  - (8) 当社の法定監査を行う監査法人に所属する者
  - (9) 就任の前10年以内において上記(2)のいずれかに該当していた者
  - (10) 過去において上記(1)に該当していた者、ならびに前1年間もしくはそれと同視できる期間において上記(3)ないし(8)に該当していた者
  - (11) 次のいずれかに該当する者の配偶者または2親等以内の親族
    - (ア) 上記(1)ないし(9)に掲げる者。
    - (イ) 前1年間もしくはそれと同視できる期間において当社および当社グループ会社の業務執行者に該当していた者。
    - (ウ) 上記(ア)における業務執行者とは、各会社および取引先の業務執行取締役、執行役員および部長職相当の従業員である重要な業務執行者をいい、部長職相当未満の者を含まない。
    - (エ) 上記(ア)にかかわらず、上記(5)における「団体に所属する者」とは、「重要な業務執行者およびその団体が監査法人や法律事務所等の会計や法律の専門家団体の場合は公認会計士、弁護士等の専門的な資格を有する者」でない者を含まない。
    - (オ) 上記(ア)にかかわらず、上記(8)の「監査法人に所属する者」においては、「重要な業務執行者および公認会計士等の専門的な資格を有する者」でない者を含まない。
- 3 上記2に規定する要件に該当しない場合であっても、独立役員としての責務を果たせないと判断するに足る事情があるときには、当該社外役員を独立役員に指定しないことといたします。
- 4 上記に従い独立役員に指定すべきとする社外役員につき、本人の書面による同意に基づき独立役員に指定し、当社が上場している証券取引所に届出を行う。なお、届出の前に、取締役会および監査等委員会にて報告するものといたします。

監査等委員である社外取締役による監督又は監査と内部監査および会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

監査等委員である社外取締役は、取締役会および監査等委員会に出席し、経営会議、「内部統制委員会」をはじめとする社内の重要会議の内容等につき報告を受け、かつ、「内部統制・監査部」を含む業務執行部門から適宜説明を受けるとともに、会計監査人からの監査の実施状況・結果の報告の確認を行っております。また、その際に、それぞれの社外取締役の客観的な立場からいただいた意見については、内部監査、監査等委員会による監査および会計監査において適切に反映し、それぞれの実効性と効率性の向上を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査等委員会の状況

当社の監査等委員である取締役（4名）は、監査等委員会で定めた監査の方針、業務の分担等に従い、取締役会（年間13回）、経営会議（年間23回）、その他重要会議に出席するほか、必要に応じて代表取締役および業務執行の取締役（計6名）、理事（9名）、関係部門等から事業内容、課題、リスク等の報告を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、当社およびグループ会社において業務ならびに財産の状況の調査等を実施しております。

また、監査等委員である社外取締役（3名）は、独立の立場に基づき監査を行うとともに、取締役会や監査等委員会では、それぞれの専門的知見やバックグラウンドを活かす形で意見を述べております。なお、小西弘之は、国税庁職員ならびに税理士としての、藤咲雄司は他社での経営経験者としての、矢倉昌子は弁護士としての、それぞれ豊富な経験と幅広い見識を有しております。

<監査等委員会の出席状況>

当事業年度において、当社は監査等委員会を13回開催しており、1回あたりの開催時間は約1時間程度でした。個々の監査等委員の出席状況は以下のとおりです。

氏名	出席回数
岡田 薫（常勤）	3回 / 3回（出席率100%）
乾 禄 治（常勤）（現任）	10回 / 10回（出席率100%）
小西 弘 之（社外）（現任）	13回 / 13回（出席率100%）
藤 咲 雄 司（社外）（現任）	13回 / 13回（出席率100%）
矢 倉 昌 子（社外）（現任）	13回 / 13回（出席率100%）

監査等委員会における年間の決議事項は、以下のとおりです。

- ・監査報告書作成、監査等委員会運営方法、選定監査等委員・特定監査等委員選定年鑑、年間監査方針・計画・職務分担
- ・取締役選任に関する意見決定、監査等委員選任議案に対する同意、取締役報酬に関する意見決定
- ・会計監査人再任、会計監査人報酬に関する同意

監査等委員会における年間の協議事項は、以下のとおりです。

- ・年間監査等委員会予定
- ・監査等委員報酬配分

監査等委員会における主な報告事項は、以下のとおりです。

- ・月次監査活動報告
- ・年間および四半期決算報告
- ・年間予算案報告

監査等委員会における当該年度の主な討議内容は、以下のとおりです。

- ・他社事例を参考とした、事業リスク、情報システムリスク、不正リスクなどの確認、対応策検討
- ・ダイバーシティ、SDG等、企業の社会的責任を果たすための取組みの対応

内部監査の状況

a. 組織、人員および実施手続き

当社における内部監査は、取締役社長直轄で、専任者3名を擁する「内部統制・監査部」が実施しております。監査対象は当社および関係会社の業務全般で、実施手続きは以下のとおりです。

- ・計画：内部監査規程にもとづき、監査対象のリスクを考慮し、監査計画を策定し、取締役社長承認を得ます。
- ・実施：法令遵守、財務報告の信頼性、業務の有効性・効率性、資産の保全の視点からリスクを検証します。
- ・報告：被監査部門長および担当取締役あてに監査目的、範囲、結果を含む監査報告書を提出します。
- ・是正：被監査部門と指摘事項のリスク、原因、対策を合意し、改善状況のフォローアップを行います。

監査結果を含む内部監査の状況は、取締役会および内部統制委員会に報告するとともに年度監査報告書を取締役社長に提出しています。

また、内部統制・監査部は、財務報告に係る内部統制の整備・運用について独立した立場で評価し、結果を内部統制委員会に報告しています。

b. 監査等委員会および会計監査人との連携

以下のとおり三様監査の強化を図っております。

- ・監査等委員会と個別監査の実行状況の共有、評価の意見、関連情報の交換等の連携を行います。当事業年度においては、監査等委員会との会合を12回行いました。
- ・会計監査人と財務報告に係る内部統制評価に関する評価範囲、方法を協議しています。
- ・必要に応じて、監査等委員会、会計監査人、内部統制・監査部の情報共有、意見交換を行っています。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

b. 継続監査期間

21年間

c. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 中畑 孝英、中村 武浩

d. 監査業務に係る補助者の構成

監査業務に係る補助者は、監査法人の選定基準に基づき決定されており、具体的には、公認会計士9名、公認会計士試験合格者7名、その他10名であります。

e. 会計監査人と監査等委員会の連携

内部統制システムの実効性を高めるために、監査等委員会は会計監査人と連携し、定期的に会計監査の実施状況や監査結果の報告を受け、課題やリスクについて意見交換を行い、妥当性についての確認を行っております。当事業年度には、会計監査人との会合を8回行いました。

f. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査法人の選定方針は、会社法第399条の2に基づき、会計監査人の選任および再任に関する決定は監査等委員会が行っております。日本監査役協会が公表している「会計監査人の選解任等に関する議案の内容の決定権行使に関する監査役の対応指針」および「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき、適切に判断しております。また、当社の監査等委員会は、会社法第340条に定める監査等委員会による会計監査人の解任のほか、会計監査人の独立性、その職務の遂行状況等に鑑み会計監査人が継続して職務を遂行することに関し、重大な疑義が生じた場合には、会社法第399条の2に定める手続きに従い、会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

当社が有限責任 あずさ監査法人を選定した理由は、監査法人の品質管理、独立性、監査報酬等の内容・水準、監査等委員とのコミュニケーション、経営者等との関係、海外のネットワーク、不正リスクへの対応等の観点から総合的に判断し、選定いたしました。

g. 監査等委員会による監査法人の評価

当社の監査等委員および監査等委員会は、監査法人に対して、評価を行っております。監査等委員会は、監査等委員会の評価基準（欠格事由の有無、独立性、品質管理体制、監査体制、監査報酬水準、監査実施状況および関連部署からの聴取）に基づき判断した結果、有限責任 あずさ監査法人による会計監査は、適正に行われていることを確認しており、再任が妥当であると評価しております。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	24		25	
連結子会社				
計	24		25	



## b. 監査公認会計士等と同一のネットワーク（KPMG）に対する報酬（a.を除く）

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社		1		2
連結子会社	3		3	
計	3	1	3	2

## 前連結会計年度

当社における非監査業務の内容は、税務関連業務です。

## 当連結会計年度

当社における非監査業務の内容は、税務関連業務です。

## c. その他重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

## d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありませんが、監査時間等を勘案して適切に報酬額を決定した上で会社法第399条に基づく監査等委員会の同意を得ております。

## e. 監査等委員会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬に対して、当社監査等委員会が、会社法第399条第1項の同意をした理由は、会計監査人の監査計画の内容、職務遂行状況および報酬見積りの算出根拠などが適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで会計監査人の報酬等について同意を行っております。

## (4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針に係る事項

## A. 取締役（監査等委員を除く。以下同じ）の個人別の報酬等の内容について決定に関する方針

当社は、2021年2月26日開催の取締役会において、取締役の個人別の報酬の内容に係る決定方針を決議しております。取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針の内容は以下の通りです。

## a. 基本方針

当社の取締役（監査等委員を除く。）の報酬等は、固定報酬である「基本報酬」、業績連動報酬等である「賞与」の2つから構成しております。基本報酬および業績連動報酬等（賞与）の水準は役員報酬の客観性、適正性を確保する観点から、外部第三者機関による調査等の客観的データに基づく当社と同程度の事業規模や関連する業種・業態に属する企業の報酬水準、各役位の職責内容、過去の支払い実績等を勘案して適正な水準となるよう設定しております。

## b. 基本報酬の個人別の報酬等の額の決定に関する方針（報酬等を与える時期または条件の決定に関する方針を含む）

基本報酬は、月例の固定報酬とし、各役員の報酬額は役位の職責内容や従事職務、中長期的な会社業績などを反映させて決定します。

## c. 業績連動報酬等（賞与）内容および額の決定に関する方針

業績連動報酬等（賞与）は各取締役の毎年の事業計画達成へのインセンティブとするのに最も客観的かつ妥当な指標として、連結営業利益にリンクした算出フォーミュラを定めて算出された額を原則として毎年一回、一定の時期に現金で支給いたします。

## d. 基本報酬と業績連動報酬等（賞与）の割合に関する方針

基本報酬と業績連動報酬（賞与）の支給割合は、毎年の事業計画達成へのインセンティブを高めると同時に、その行動が短期的、部分最適に偏らぬよう支給割合を設定しております。

## e. 取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する事項

取締役の個人別の報酬等の決定にあたり、その透明性と公正性を一層高めるため、監査等委員である取締役を主要な構成員とする、役員報酬諮問委員会が役員報酬制度、役員報酬支給基準および基本報酬と業績連動報酬等（賞与）の割合等に関し、代表取締役および取締役会に適切な助言を行うことといたします。

各取締役の個人別の報酬額は取締役会の授權を受けた取締役社長が役員報酬諮問委員会の答申を踏まえて決定します。

## B. 取締役の個人別の報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

取締役（監査等委員を除く。）の個人別の報酬額の具体的内容の決定に関し、取締役社長佐々木 康彰氏に委任した理由は、社長として、各取締役の業務執行状況全般を掌握しうる立場にあるためです。

## 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	人数(人)	固定報酬 (百万円)	業績連動報酬 (百万円)	合計 (百万円)
取締役(監査等委員を除く。) (社外取締役を除く。)	9	122	25	148
取締役(監査等委員) (社外取締役を除く。)	2	18		18
社外役員	4	26	0	26

- (注) 1 2022年度の実績(監査等委員を除く。)報酬につきましては、2022年5月30日に開催された「役員報酬諮問委員会」の助言を受け、2022年6月24日開催の取締役会決議により授権を受けた取締役社長が決定しております。
- 2 上記の人数には2022年6月24日開催の第122期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役(監査等委員を除く)2名を含んでおります。
- 3 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
- 4 取締役(監査等委員を除く。)の報酬限度額(10名以内)は、2016年6月24日開催の第116期定時株主総会の決議によって、年額200百万円以内(うち社外取締役分は年額10百万円以内)と定められております。
- 5 取締役(監査等委員)の報酬限度額(5名以内)は、2017年6月23日開催の第117期定時株主総会の決議によって、年額50百万円以内と定められております。
- 6 業績連動報酬等の算定に用いた業績指標に関する実績：連結営業利益27億8百万円(当社は賞与算出において、目標に対する達成度合によって賞与を決定する方式を採用しておりません。)
- 7 上記の実績(個人別の報酬等の内容)についての決定に関する方針に従い、役員報酬諮問委員会の助言に基づき、取締役の個人別の報酬等が決定されておりますので、当該報酬等がこの方針に沿うものであると判断しております。

## 役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

## 使用人兼務役員の使用人給与

該当事項はありません。

## (5) 【株式の保有状況】

## 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動と配当を目的として保有する株式を純投資目的である株式、それ以外の目的で保有する株式を純投資以外の目的で保有する株式としております。なお、原則として当社は、純投資目的である株式は保有いたしません。

## 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容
- 当社は、円滑な事業運営、取引関係の維持・強化などを目的として、中長期的な経済合理性や将来見通しを総合的に勘案した上で、必要と判断される場合に限り、株式を政策的に保有します。保有する株式については、事業環境の変化・リターンとリスクなどを踏まえた中長期的な経済合理性や将来の見通しなどを踏まえ、毎年取締役会において対外的な保有のねらい・合理性についての具体的な説明を行い、保有の適否を検証する等適宜見直し致します。なお保有の必要性がないと判断された場合には市場動向をみながら売却する方針としております。
- 個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容は、円滑な事業運営、取引関係の維持・強化などを目的として、保有する株式については、事業の変化・リターンとリスクなどを踏まえた中長期的な経済合理性や将来見通しなどから勘案し検証しております。

## b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	2	1
非上場株式以外の株式	2	67

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式			
非上場株式以外の株式			

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式		
非上場株式以外の株式	3	35

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報  
特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社 カネカ(注)2	14,100		主に接着剤の販売などの事業上の取引があり、良好な取引関係の維持を目的として保有しております。(注)1	無
	48			
リケンテクノス 株式会社	32,000	32,000	主に可塑剤の販売などの事業上の取引があり、良好な取引関係の維持を目的として保有しております。なお、株式数は増加しておりません。(注)1	無
	18	14		
セメダイン 株式会社		50,000	セメダイン株式会社は株式会社カネカと株式交換をしております。これに伴い、株式会社カネカの完全子会社に移行しております。	有
		41		
広栄化学 株式会社		10,000	主に製品の販売や原材料の仕入れなどの事業上の取引があり、良好な取引関係の維持を目的として保有していましたが、検証の結果、当事業年度において全株式を売却しました。	有
		23		
住友精化 株式会社		4,000	主に製品の販売や原材料の仕入れなどの事業上の取引があり、良好な取引関係の維持を目的として保有していましたが、検証の結果、当事業年度において全株式を売却しました。	無
		12		
神東塗料 株式会社		2,000	主に化学分析受託事業などの事業上の取引があり、良好な取引関係の維持を目的として保有していましたが、検証の結果、当事業年度において全株式を売却しました。	無
		0		

(注) 1 2023年4月26日開催の取締役会において、保有目的や定量的な保有効果の検証を行っております。

2 セメダイン株式会社は2022年8月1日付で株式会社カネカと株式交換をしております。これに伴い、株式会社カネカの完全子会社に移行しており、セメダイン株式会社の株式1株につき株式会社カネカの株式0.282株を割当交付されております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の連結財務諸表および事業年度(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人により監査を受けております。

### 3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、以下の通り連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修への参加をしております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	718,630	853,402
受取手形	145,757	165,392
売掛金	5,923,035	4,270,758
商品及び製品	6,841,634	6,352,161
仕掛品	294,728	186,822
原材料及び貯蔵品	2,899,348	4,114,347
その他	1,013,877	301,814
流動資産合計	17,837,013	16,244,699
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	3 9,239,077	3 9,375,803
減価償却累計額	1 5,733,755	1 5,881,941
建物及び構築物(純額)	3,505,321	3,493,862
機械装置及び運搬具	3 22,529,560	3 23,249,539
減価償却累計額	1 19,223,707	1 19,838,085
機械装置及び運搬具(純額)	3,305,852	3,411,453
土地	1,208,903	1,208,903
建設仮勘定	4,300,548	4,569,190
その他	2,831,357	2,981,031
減価償却累計額	1 1,915,584	1 2,130,918
その他(純額)	915,772	850,112
有形固定資産合計	13,236,399	13,533,523
<b>無形固定資産</b>		
ソフトウェア	38,255	34,983
その他	22,166	19,537
無形固定資産合計	60,421	54,520
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	93,171	68,638
関係会社株式	2 35,228	2 84,228
繰延税金資産	1,089,470	1,035,069
その他	66,773	49,037
貸倒引当金	700	700
投資その他の資産合計	1,283,942	1,236,273
固定資産合計	14,580,764	14,824,318
資産合計	32,417,778	31,069,018

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	6,640,679	4,155,625
短期借入金	8,150	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	320,000	620,000
未払法人税等	189,981	40,837
賞与引当金	508,155	503,539
その他	4,495,695	2,714,284
流動負債合計	12,162,662	9,634,286
固定負債		
長期借入金	480,000	2,110,000
退職給付に係る負債	2,627,260	2,524,576
その他	398,611	229,522
固定負債合計	3,505,872	4,864,099
負債合計	15,668,534	14,498,386
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,572,000	1,572,000
資本剰余金	1,008,755	1,008,755
利益剰余金	14,095,496	13,890,308
自己株式	39,513	39,513
株主資本合計	16,636,739	16,431,550
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	46,011	34,760
為替換算調整勘定	47,360	54,184
退職給付に係る調整累計額	19,131	50,136
その他の包括利益累計額合計	112,503	139,081
純資産合計	16,749,243	16,570,631
負債純資産合計	32,417,778	31,069,018

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	
売上高	1	32,374,017	1	30,166,521
売上原価	2	26,052,524	2	26,166,224
売上総利益		6,321,492		4,000,296
販売費及び一般管理費	3、4	3,613,158	3、4	3,549,241
営業利益		2,708,333		451,055
営業外収益				
受取利息		4,207		5,216
受取配当金		21,354		21,798
不用品処分益		16,797		19,596
その他		54,640		9,828
営業外収益合計		96,999		56,439
営業外費用				
支払利息		2,474		8,791
為替差損		3,358		40,723
その他		724		210
営業外費用合計		6,557		49,726
経常利益		2,798,775		457,768
特別利益				
投資有価証券売却益		-		26,421
特別利益合計		-		26,421
特別損失				
固定資産除却損	5	30,014	5	6,022
特別損失合計		30,014		6,022
税金等調整前当期純利益		2,768,761		478,168
法人税、住民税及び事業税		706,911		121,818
法人税等調整額		1,887		45,698
法人税等合計		705,024		167,517
当期純利益		2,063,736		310,650
非支配株主に帰属する当期純利益		-		-
親会社株主に帰属する当期純利益		2,063,736		310,650

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
当期純利益	2,063,736	310,650
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,078	11,250
為替換算調整勘定	28,102	6,823
退職給付に係る調整額	7,118	31,004
その他の包括利益合計	15,904	26,577
包括利益	2,079,641	337,227
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,079,641	337,227
非支配株主に係る包括利益	-	-



## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,572,000	1,008,755	12,600,052	39,513	15,141,294
当期変動額					
連結範囲の変動			52,453		52,453
剰余金の配当			515,838		515,838
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,063,736		2,063,736
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,495,444	-	1,495,444
当期末残高	1,572,000	1,008,755	14,095,496	39,513	16,636,739

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	51,090	19,257	26,250	96,599	15,237,893
当期変動額					
連結範囲の変動					52,453
剰余金の配当					515,838
親会社株主に帰属する 当期純利益					2,063,736
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	5,078	28,102	7,118	15,904	15,904
当期変動額合計	5,078	28,102	7,118	15,904	1,511,349
当期末残高	46,011	47,360	19,131	112,503	16,749,243

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,572,000	1,008,755	14,095,496	39,513	16,636,739
当期変動額					
剰余金の配当			515,838		515,838
親会社株主に帰属する 当期純利益			310,650		310,650
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	205,188	-	205,188
当期末残高	1,572,000	1,008,755	13,890,308	39,513	16,431,550

	その他の包括利益累計額				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	46,011	47,360	19,131	112,503	16,749,243
当期変動額					
剰余金の配当					515,838
親会社株主に帰属する 当期純利益					310,650
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	11,250	6,823	31,004	26,577	26,577
当期変動額合計	11,250	6,823	31,004	26,577	178,611
当期末残高	34,760	54,184	50,136	139,081	16,570,631

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,768,761	478,168
減価償却費	1,474,266	1,462,177
退職給付に係る負債の増減額 ( は減少 )	13,249	58,022
受取利息及び受取配当金	25,561	27,014
支払利息	2,474	8,791
固定資産売却損益 ( は益 )	-	994
固定資産除却損	30,014	6,022
売上債権の増減額 ( は増加 )	681,467	1,651,615
棚卸資産の増減額 ( は増加 )	3,796,962	615,611
仕入債務の増減額 ( は減少 )	748,196	2,498,906
投資有価証券売却損益 ( は益 )	-	26,421
その他	634,332	1,339,639
小計	101,362	1,719,443
利息及び配当金の受取額	25,561	27,014
利息の支払額	2,904	8,341
法人税等の支払額	1,250,875	260,031
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,329,580	1,478,085
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	2,042,028	4,318,843
無形固定資産の取得による支出	34,948	9,714
投資有価証券の取得による支出	-	49,000
投資有価証券の売却による収入	-	34,747
その他	1,595	3,043
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,075,381	4,339,767
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 ( は減少 )	8,150	1,591,512
長期借入れによる収入	600,000	2,500,000
長期借入金の返済による支出	355,355	570,000
配当金の支払額	515,838	515,838
リース債務の返済による支出	10,490	9,794
財務活動によるキャッシュ・フロー	273,534	2,995,879
現金及び現金同等物に係る換算差額	17,693	574
現金及び現金同等物の増減額 ( は減少 )	3,660,803	134,771
現金及び現金同等物の期首残高	4,330,354	718,630
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	49,080	-
現金及び現金同等物の期末残高	718,630	853,402

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数および名称 3社

株式会社田岡化学分析センター

タオカ ケミカル インド プライベート リミテッド

田岡化工材料(上海)有限公司

(2) 主要な非連結子会社の名称等

非連結子会社の名称

田岡淀川ジェネラルサービス株式会社

田岡播磨ジェネラルサービス株式会社

タオカ ケミカル シンガポール プライベート リミテッド

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除いております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社および関連会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社の名称等

（非連結子会社）

田岡淀川ジェネラルサービス株式会社

田岡播磨ジェネラルサービス株式会社

タオカ ケミカル シンガポール プライベート リミテッド

（関連会社）

MTオプティクス株式会社

持分法を適用していない理由

持分法を適用していない非連結子会社および関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等、連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、田岡化工材料(上海)有限公司（12月31日）を除き、連結決算日と一致しております。なお、田岡化工材料(上海)有限公司については、同社の決算日現在の財務諸表を使用して連結決算を行っております。ただし、連結決算日との間に生じた田岡化工材料(上海)有限公司との重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

棚卸資産

総平均法による原価法（収益性の低下した棚卸資産については簿価切り下げの方法により算定しております。）

デリバティブ

時価法

- (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法  
有形固定資産（リース資産を除く）  
定額法によっております。  
無形固定資産（リース資産を除く）  
定額法によっております。  
主な耐用年数は次のとおりです。  
自社利用のソフトウェア 5年  
リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準  
貸倒引当金  
売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。  
賞与引当金  
従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法  
退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。  
数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法  
過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により費用処理しております。  
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した連結会計年度から費用処理しております。
- (5) 重要な収益及び費用の計上基準  
当社グループは、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。  
ステップ1：契約の識別  
ステップ2：履行義務の識別  
ステップ3：取引価格の算定  
ステップ4：履行義務への取引価格の配分  
ステップ5：履行義務の充足による収益の認識  
当社グループは、精密化学品、機能材、樹脂添加剤の製造および販売を主な事業としております。物品販売については、契約の定めに基づき顧客に物品を引渡した時点や、インコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転する時点において、顧客が当該物品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該履行義務の充足時点で収益を認識しております。ただし、製品の国内の販売については、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間であるため、出荷時に収益を認識しております。  
取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価から、値引き額等を控除した金額で算定しております。  
なお、取引の対価は履行義務を充足してから概ね1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。
- (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産および負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益および費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。
- (7) 重要なヘッジ会計の方法  
ヘッジ会計の方法  
為替予約 振当処理によっております。  
  
ヘッジ手段とヘッジ対象  
ヘッジ手段 為替予約  
ヘッジ対象 外貨建取引  
  
ヘッジ方針  
当社社内規程に基づき為替変動リスクをヘッジしております。  
  
ヘッジ有効性評価の方法  
為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段の通貨種別、行使日、金額等の条件がほぼ同一であり、相関関係が高いことから、有効性の評価を省略しております。
- (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしが負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

該当事項はありません。

(未適用の会計基準等)

- ・「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)
- ・「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)
- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)

(1) 概要

その他の包括利益に対して課税される場合の法人税等の計上区分及びグループ法人税制が適用される場合の子会社株式等の売却に係る税効果の取扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2025年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「設備関係未払金」(前連結会計年度3,682,326千円)は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「設備関係未払金」3,682,326千円、「その他」813,369千円は、「その他」4,495,695千円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取補償金」は、営業外収益の総額の100分の10以下となったため、当連結会計年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「受取補償金」46,213千円、「その他」8,427千円は、「その他」54,640千円として組み替えております。



(連結貸借対照表関係)

1 減価償却累計額には減損損失累計額が含まれております。

2 非連結子会社および関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
関係会社株式	35,228千円	84,228千円

3 国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額およびその内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
圧縮記帳額	145,337千円	145,337千円
(うち、建物及び構築物)	1,119千円	1,119千円
(うち、機械装置及び運搬具)	144,218千円	144,218千円

## (連結損益計算書関係)

## 1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

## 2 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。なお、期末棚卸高は収益性低下に伴う簿価切下後の金額であります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
売上原価	130,122千円	37,499千円

## 3 研究開発費はすべて販売費及び一般管理費に含まれており、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
	907,769千円	837,125千円

## 4 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
運送費及び保管費	723,149千円	712,203千円
給料手当及び福利費	853,831千円	867,040千円
賞与引当金繰入額	217,998千円	192,521千円
退職給付費用	33,844千円	35,164千円
研究開発費	907,769千円	837,125千円

## 5 固定資産除却損の主な内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
建物及び構築物	4,605千円	844千円
機械装置及び運搬具	6,526千円	4,457千円
工具、器具及び備品	827千円	256千円
撤去費用	18,056千円	463千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	7,316	10,214
組替調整額	-	26,421
税効果調整前	7,316	16,206
税効果額	2,237	4,956
その他有価証券評価差額金	5,078	11,250
為替換算調整勘定		
当期発生額	28,102	6,823
組替調整額	-	-
税効果調整前	28,102	6,823
税効果額	-	-
為替換算調整勘定	28,102	6,823
退職給付に係る調整額		
当期発生額	17,397	63,522
組替調整額	27,651	18,860
税効果調整前	10,254	44,661
税効果額	3,135	13,657
退職給付に係る調整額	7,118	31,004
その他の包括利益合計	15,904	26,577

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	2,888,000	11,552,000	-	14,440,000

(変動事由の概要)

2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行ったことによる増加 11,552,000株

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	22,228	88,912	-	111,140

(変動事由の概要)

2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行ったことによる増加 88,912株

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月12日 取締役会	普通株式	257,919	90.00	2021年3月31日	2021年6月4日
2021年10月28日 取締役会	普通株式	257,919	90.00	2021年9月30日	2021年12月3日

(注) 当社は、2021年10月1日付で普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。1株当たり配当額は当該株式分割前の金額を記載しております。

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2022年5月11日 取締役会	普通株式	利益剰余金	257,919	18.00	2022年3月31日	2022年6月6日

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

## 1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	14,440,000	-	-	14,440,000

## 2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	111,140	-	-	111,140

## 3 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月11日 取締役会	普通株式	257,919	18.00	2022年3月31日	2022年6月6日
2022年10月27日 取締役会	普通株式	257,919	18.00	2022年9月30日	2022年12月2日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2023年5月12日 取締役会	普通株式	利益剰余金	128,959	9.00	2023年3月31日	2023年6月2日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
現金及び預金勘定	718,630千円	853,402千円
現金及び現金同等物	718,630千円	853,402千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、国内外における事業遂行のための設備投資計画等に照らして必要な長期資金を金融機関等からの借入により調達しております。また、短期的な運転資金は銀行借入や自己資金により調達しております。調達にあたっては、必要な資金を適切な時期に過不足なく機動的に調達することを旨とし、資金の安定確保と金融費用の極小化を目指すこととしております。

デリバティブについては、リスクのヘッジ取引でのみ利用し、その限度額を実需の範囲とすることとしており、短期的な売買損益を獲得する目的や投機目的には利用しない方針であります。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形および売掛金は、顧客の信用リスクに晒されておりますが、そのすべての回収期日を1年以内に設定することで信用リスクを低減させております。また、輸出取引等により発生する外貨建て営業債権は、為替レートの変動リスクに晒されておりますが、当社は、外貨建て債権を日本円に両替せず外貨建て債務の支払に充当することにより為替リスクを軽減しております。営業債務である買掛金は、そのすべての支払期日は1年以内であります。借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資等に必要な資金調達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は債権管理について定めた社内規程に従い、営業債権について、営業部門が定期的に全営業取引先の状況、販売取引高および債権残高をチェックして取引方針の見直しを実施するとともに、財務状況等の悪化等による取引先の信用リスクの早期把握や軽減を図っております。連結子会社におきましても、各社の規程に基づき営業部門または経理担当部門が取引先の財務状況および信用状況の管理を行っております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、信用度の高い金融機関とのみ取引を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、外貨建ての営業債権は、日本円に両替せず外貨建て債務の支払いに充当しております。デリバティブ取引をリスクのヘッジ目的で利用することとしております。このため、市場リスクはほとんどないと判断しております。

投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引については、デリバティブ取引の利用目的、取組方針、取引に係る権限や手続きを定めた社内規程を作成しており、この規程の遵守およびヘッジ効果の確認等によりリスク管理を行っております。当社におけるデリバティブ取引の約定手続きは、経理担当部門が決裁権限規程に定められた決裁者の承認を得て取引を行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、年度毎に資金繰り計画を作成するとともに、資金繰り表を日々更新して管理しております。また、金融機関との間で当座借越契約を締結し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

(5) 信用リスクの集中

当期の連結決算日現在における営業債権のうち24%が特定の大口顧客に対するものであります。

## 2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度（2022年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	92,026	92,026	-
資産計	92,026	92,026	-
1年内返済予定の長期借入金	320,000	319,674	325
長期借入金	480,000	474,436	5,563
負債計	800,000	794,110	5,889

(\*1) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「買掛金」、「短期借入金」については、現金は注記を省略しており、預金、受取手形、売掛金、買掛金、短期借入金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから注記を省略しております。

(\*2) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	前連結会計年度（千円）
非上場株式	1,145
関係会社株式	35,228

当連結会計年度（2023年3月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券			
その他有価証券	67,493	67,493	-
資産計	67,493	67,493	-
1年内返済予定の長期借入金	620,000	619,403	596
長期借入金	2,110,000	2,088,339	21,660
負債計	2,730,000	2,707,743	22,256
デリバティブ取引	-	-	-

(\*1) 「現金及び預金」、「受取手形」、「売掛金」、「買掛金」、「短期借入金」については、現金は注記を省略しており、預金、受取手形、売掛金、買掛金、短期借入金は、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから注記を省略しております。

(\*2) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の連結貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

区分	当連結会計年度（千円）
非上場株式	1,145
関係会社株式	84,228

(\*3) デリバティブ取引である為替予約取引は、ヘッジ対象とされている買掛金と一体として処理されているため、買掛金の時価に含めて記載を省略しております。



(注1) 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額  
前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	718,630	-	-	-
受取手形	145,757	-	-	-
売掛金	5,923,035	-	-	-
合計	6,787,423	-	-	-

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	853,402	-	-	-
受取手形	165,392	-	-	-
売掛金	4,270,758	-	-	-
合計	5,289,553	-	-	-

(注2) 長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	8,150	-	-	-	-	-
長期借入金	320,000	120,000	120,000	120,000	120,000	-
リース債務	9,794	9,794	9,794	9,288	8,580	119,174
合計	337,944	129,794	129,794	129,288	128,580	119,174

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,600,000	-	-	-	-	-
長期借入金	620,000	620,000	620,000	620,000	250,000	-
リース債務	9,794	9,794	9,288	8,580	8,580	110,594
合計	2,229,794	629,794	629,288	628,580	258,580	110,594

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

#### (1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券	92,026	-	-	92,026
資産計	92,026	-	-	92,026

当連結会計年度（2023年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
その他有価証券	67,493	-	-	67,493
資産計	67,493	-	-	67,493

#### (2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度（2022年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
1年内返済予定の長期借入金	-	319,674	-	319,674
長期借入金	-	474,436	-	474,436
負債計	-	794,110	-	794,110

当連結会計年度（2023年3月31日）

区分	時価（千円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
1年内返済予定の長期借入金	-	619,403	-	619,403
長期借入金	-	2,088,339	-	2,088,339
負債計	-	2,707,743	-	2,707,743

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

1年内返済予定の長期借入金, 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額と、当該債務の残存期間および信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## (有価証券関係)

## 1 その他有価証券

前連結会計年度(2022年3月31日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	92,026	25,745	66,280
	小計	92,026	25,745	66,280
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		92,026	25,745	66,280

当連結会計年度(2023年3月31日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	67,493	17,419	50,073
	小計	67,493	17,419	50,073
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		67,493	17,419	50,073

## 2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	34,747	26,421	-
合計	34,747	26,421	-

## (デリバティブ取引関係)

## 1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

前連結会計年度(2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

該当事項はありません。

## 2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

## 通貨関連

前連結会計年度(2022年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2023年3月31日)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)
為替予約等の 振当処理	為替予約取引 買建 米ドル	買掛金	198,442	-	(注)
合計			198,442	-	

(注) 取引先金融機関等から掲示された価格等に基づき算定しています。なお、為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている買掛金と一体として処理されているため、買掛金の時価に含めて記載を省略しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社および国内連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度、確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,603,756	2,627,260
勤務費用	171,622	172,066
利息費用	10,933	13,655
数理計算上の差異の発生額	26,095	95,284
退職給付の支払額	132,955	193,121
退職給付債務の期末残高	2,627,260	2,524,576

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
非積立型制度の退職給付債務	2,627,260	2,524,576
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,627,260	2,524,576
退職給付に係る負債	2,627,260	2,524,576
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,627,260	2,524,576

(3) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
勤務費用	171,622	172,066
利息費用	10,933	13,655
数理計算上の差異の費用処理額	36,350	50,622
確定給付制度に係る退職給付費用	146,205	135,099

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	（単位：千円）	
	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
数理計算上の差異	10,254	44,661
合計	10,254	44,661

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	（単位：千円）	
	前連結会計年度 (2022年 3月31日)	当連結会計年度 (2023年 3月31日)
未認識数理計算上の差異	27,559	72,221
合計	27,559	72,221

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)		当連結会計年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)	
	割引率	0.552%		0.979%

3 確定拠出制度

当社および国内連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度21,114千円、当連結会計年度21,866千円であります。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
退職給付に係る負債	803,416千円	772,016千円
減価償却費	36,956千円	34,791千円
賞与引当金	156,234千円	154,776千円
未払金	6,116千円	6,116千円
未払事業税	20,415千円	7,847千円
棚卸資産未実現利益消去	1,626千円	2,534千円
棚卸資産評価損	74,770千円	79,399千円
減損損失	49,558千円	43,339千円
その他	71,017千円	60,373千円
小計	1,220,109千円	1,161,192千円
評価性引当額	50,709千円	54,305千円
繰延税金資産合計	1,169,399千円	1,106,887千円
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	20,268千円	15,312千円
貸方原価差額調整	31,297千円	29,163千円
固定資産圧縮積立金	28,364千円	27,342千円
繰延税金負債合計	79,929千円	71,817千円
繰延税金資産純額	1,089,470千円	1,035,069千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1%	1.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6%	3.3%
試験研究費の税額控除	4.9%	1.9%
住民税均等割額	0.3%	1.7%
過年度法人税等	- %	5.5%
その他	0.0%	1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.5%	35.0%

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当連結会計年度より精密化学品部門は精密化学品事業部、機能材部門は機能材事業部となり、機能樹脂部門および化成部門は樹脂添加剤事業部へと統合しております。また、従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。前連結会計年度につきましては、変更後の数値で記載しております。

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	化学工業	化学分析受託事業	
精密化学品事業部	17,153,164		17,153,164
機能材事業部	3,807,999		3,807,999
樹脂添加剤事業部	10,813,318		10,813,318
化学分析受託事業		599,534	599,534
顧客との契約から生じる収益	31,774,482	599,534	32,374,017
外部顧客への売上高	31,774,482	599,534	32,374,017

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	化学工業	化学分析受託事業	
精密化学品事業部	13,856,744		13,856,744
機能材事業部	3,285,290		3,285,290
樹脂添加剤事業部	12,403,606		12,403,606
化学分析受託事業		620,879	620,879
顧客との契約から生じる収益	29,545,642	620,879	30,166,521
外部顧客への売上高	29,545,642	620,879	30,166,521

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

注記事項の「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。



3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

当連結会計年度の期首および期末において契約負債残高はないため、当連結会計年度に認識した収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた金額はありません。

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
顧客との契約から生じた債権（期首残高）		
受取手形	118,906	145,757
売掛金	5,268,418	5,923,035
	5,387,325	6,068,793
顧客との契約から生じた債権（期末残高）		
受取手形	145,757	165,392
売掛金	5,923,035	4,270,758
	6,068,793	4,436,151
契約資産（期首残高）	-	-
契約資産（期末残高）	-	-
契約負債（期首残高）	-	-
契約負債（期末残高）	-	-

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループでは、残存履行義務に配分した取引価格については、当初に予想される契約期間が1年を超える契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

当社の報告セグメントは、精密化学品、機能材、樹脂添加剤の製造販売を行う「化学工業」および環境分析と材料分析を行う「化学分析受託事業」を報告セグメントとしております。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

当連結会計年度より、従来「その他」を構成していた「化学分析受託事業」について量的な重要性が増したため報告セグメントとして記載する方法へ変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分により作成しており、「4. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の前連結会計年度に記載しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	化学工業	化学分析受託事業			
売上高					
外部顧客への売上高	31,774,482	599,534	32,374,017	-	32,374,017
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	72,327	72,327	72,327	-
計	31,774,482	671,861	32,446,344	72,327	32,374,017
セグメント利益	2,658,535	51,379	2,709,915	1,581	2,708,333
セグメント資産	32,154,733	169,873	32,324,607	93,171	32,417,778
その他の項目					
減価償却費	1,474,266	-	1,474,266	-	1,474,266
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	4,641,212	-	4,641,212	-	4,641,212

(注) 1 調整額は以下の通りであります。

(1) 「セグメント利益」の調整額 1,581千円は、セグメント間取引の消去に伴う調整額であります。

(2) 「セグメント資産」の調整額は連結会社での長期投資資金（投資有価証券）93,171千円であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	化学工業	化学分析受託事業			
売上高					
外部顧客への売上高	29,545,642	620,879	30,166,521	-	30,166,521
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	65,573	65,573	65,573	-
計	29,545,642	686,453	30,232,095	65,573	30,166,521
セグメント利益	398,526	51,502	450,028	1,026	451,055
セグメント資産	30,853,140	147,239	31,000,380	68,638	31,069,018
その他の項目					
減価償却費	1,462,177	-	1,462,177	-	1,462,177
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	1,747,748	-	1,747,748	-	1,747,748

(注) 1 調整額は以下の通りであります。

(1) 「セグメント利益」の調整額1,026千円は、セグメント間取引の消去に伴う調整額であります。

(2) 「セグメント資産」の調整額は連結会社での長期投資資金（投資有価証券）68,638千円であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 【関連情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

## 1 製品およびサービスごとの情報

製品およびサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

## 2 地域ごとの情報

## (1) 売上高

（単位：千円）

日本	アジア(日本除く)	北米	欧州	その他	合計
29,644,416	2,686,299	30,849	12,155	296	32,374,017

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱瓦斯化学株式会社	11,242,878	化学工業、化学分析受託事業
住友電工ウインテック株式会社	4,600,111	化学工業
住友化学株式会社	4,023,869	化学工業、化学分析受託事業

当連結会計年度（自 2022年4月1日 至 2023年3月31日）

1 製品およびサービスごとの情報

製品およびサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア(日本除く)	北米	欧州	その他	合計
26,333,674	3,793,292	31,997	7,556	-	30,166,521

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱瓦斯化学株式会社	7,652,354	化学工業、化学分析受託事業
住友化学株式会社	4,388,939	化学工業、化学分析受託事業
住友電工ウインテック株式会社	3,696,291	化学工業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2021年4月1日 至 2022年3月31日）

1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等被所有割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	住友化学株式会社	東京都中央区	89,699,341	総合化学工業	直接 50.61 間接 0.78	当社製品の販売 原材料の仕入 役員の兼任等	製品の販売	3,878,051	売掛金	585,931
							原材料の仕入	2,656,622	買掛金	1,105,296

(注)取引条件及び取引条件の決定方針等

市場価格、総原価を勘案して毎期価格交渉の上、決定しております。

## (イ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社をもつ会社等および連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 被所有 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	住化ファイナンス株式会社	東京都中央区	500,000	住友化学(株)関係会社への融資等	なし	資金の預託	資金の預託	22,400,000	-	-
							資金の回収	25,900,000		
同一の親会社を持つ会社	住友ケミカルエンジニアリング株式会社	千葉県千葉市美浜区	1,000,000	各種産業設備の設計、建設	なし	製造設備の購入	設備の購入	3,681,890	流動負債その他 (設備関係未払金)	4,035,240

(注)取引条件及び取引条件の決定方針等

預託の利率については、市場利率を勘案して決定しております。

設備の購入については、市場価格、総原価を勘案して毎期価格交渉の上、決定しております。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

住友化学株式会社(東京証券取引所に上場)

## (2) 重要な関連会社の要約財務情報

重要な関連会社はありません。

当連結会計年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

## 1 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 被所有 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	住友化学株式会社	東京都中央区	89,810,301	総合化学工業	直接 50.61 間接 0.78	当社製品の販売 原材料の仕入 役員の兼任等	製品の販売	4,234,238	売掛金	774,261
							原材料の仕入	2,131,661	買掛金	340,788

(注)取引条件及び取引条件の決定方針等

市場価格、総原価を勘案して毎期価格交渉の上、決定しております。

## 2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

住友化学株式会社(東京証券取引所に上場)

## (2) 重要な関連会社の要約財務情報

重要な関連会社はありません。

## (1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)		当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)	
1株当たり純資産額	1,168円92銭	1株当たり純資産額	1,156円45銭
1株当たり当期純利益	144円03銭	1株当たり当期純利益	21円68銭

- (注) 1 潜在株式調整後の1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 2021年10月1日付けで普通株式1株につき5株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額および1株当たり当期純利益を算定しております。
- 3 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)	当連結会計年度 (自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	2,063,736	310,650
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	2,063,736	310,650
普通株式の期中平均株式数(千株)	14,328	14,328

- 4 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	16,749,243	16,570,631
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	16,749,243	16,570,631
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通 株式の数(千株)	14,328	14,328

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	8,150	1,600,000	0.34	-
1年以内に返済予定の長期借入金	320,000	620,000	0.23	-
1年以内に返済予定のリース債務	9,794	9,794	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	480,000	2,110,000	0.23	2024年5月～ 2027年8月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	156,631	146,837	-	2024年4月～ 2041年3月
その他有利子負債				
長期預り金	82,325	82,685	0.44	-
合計	1,056,901	4,569,317	-	-

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2 当社はリース料総額に含まれる利息相当額を、定額法により各連結会計年度に配分しておりますのでリース債務につきましては、「平均利率」の記載を省略しております。  
3 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	620,000	620,000	620,000	250,000
リース債務	9,794	9,288	8,580	8,580

(注) 長期預り金については、個々の返済の期日がないため、連結決算日後5年以内における返済予定額の記載はしていません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	8,140,157	15,264,069	22,857,007	30,166,521
税金等調整前四半期(当期)純利益 (千円)	224,459	277,896	555,780	478,168
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	131,877	191,278	360,534	310,650
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	9.20	13.35	25.16	21.68

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は 1株当たり四半期純損失 (円)	9.20	4.15	11.81	3.48



## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	571,867	368,783
受取手形	136,778	160,009
売掛金	1 5,570,393	1 4,125,537
商品及び製品	6,809,884	6,258,792
仕掛品	280,988	175,019
原材料及び貯蔵品	2,715,681	3,873,059
前払費用	20,620	16,112
その他	1 999,755	1 96,259
流動資産合計	17,105,970	15,073,572
固定資産		
有形固定資産		
建物	3 2,771,477	3 2,688,018
構築物	732,831	804,926
機械及び装置	3 3,300,585	3 3,401,741
車両運搬具	542	253
工具、器具及び備品	748,332	691,641
土地	1,208,903	1,208,903
リース資産	164,896	155,272
建設仮勘定	4,172,074	4,435,607
有形固定資産合計	13,099,645	13,386,366
無形固定資産		
ソフトウェア	35,818	32,728
その他	22,166	19,537
無形固定資産合計	57,985	52,265
投資その他の資産		
投資有価証券	93,171	68,638
関係会社株式	262,428	311,428
関係会社出資金	162,611	297,211
長期前払費用	24,443	10,301
繰延税金資産	1,081,458	1,039,770
その他	41,769	38,725
貸倒引当金	700	700
投資その他の資産合計	1,665,181	1,765,375
固定資産合計	14,822,812	15,204,007
資産合計	31,928,782	30,277,579

(単位：千円)

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1 6,407,471	1 3,987,645
短期借入金	-	1,600,000
1年内返済予定の長期借入金	320,000	620,000
未払金	1 44,234	1 370,349
未払費用	1 555,162	1 555,166
未払法人税等	178,932	25,747
賞与引当金	465,851	460,565
その他	1 3,832,009	1 1,438,143
流動負債合計	11,803,662	9,057,618
固定負債		
長期借入金	480,000	2,110,000
退職給付引当金	2,654,820	2,596,768
その他	398,611	229,522
固定負債合計	3,533,432	4,936,291
負債合計	15,337,094	13,993,909
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,572,000	1,572,000
資本剰余金		
資本準備金	1,008,755	1,008,755
資本剰余金合計	1,008,755	1,008,755
利益剰余金		
利益準備金	170,012	170,012
その他利益剰余金		
圧縮記帳積立金	64,390	62,070
別途積立金	6,500,000	7,000,000
繰越利益剰余金	7,270,031	6,475,584
利益剰余金合計	14,004,434	13,707,667
自己株式	39,513	39,513
株主資本合計	16,545,676	16,248,909
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	46,011	34,760
評価・換算差額等合計	46,011	34,760
純資産合計	16,591,688	16,283,670
負債純資産合計	31,928,782	30,277,579

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月 31日)		当事業年度 (自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月 31日)	
売上高	1	31,217,440	1	27,520,715
売上原価	1	25,276,842	1	23,955,253
売上総利益		5,940,598		3,565,462
販売費及び一般管理費	2	3,345,942	2	3,297,527
営業利益		2,594,656		267,934
営業外収益				
受取利息及び配当金	1	61,852	1	59,296
その他	1	71,147		27,564
営業外収益合計		132,999		86,861
営業外費用				
支払利息	1	2,590	1	8,763
その他		1,160		31,631
営業外費用合計		3,751		40,395
経常利益		2,723,904		314,400
特別利益				
投資有価証券売却益		-		26,421
特別利益合計		-		26,421
特別損失				
固定資産除却損		30,014		6,022
特別損失合計		30,014		6,022
税引前当期純利益		2,693,890		334,799
法人税、住民税及び事業税		687,883		69,083
法人税等調整額		403		46,644
法人税等合計		687,480		115,727
当期純利益		2,006,409		219,071

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	1,572,000	1,008,755	1,008,755
当期変動額			
圧縮記帳積立金の取崩			
別途積立金の積立			
剰余金の配当			
当期純利益			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	1,572,000	1,008,755	1,008,755

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	170,012	66,715	6,000,000	6,277,135	12,513,863
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		2,324		2,324	-
別途積立金の積立			500,000	500,000	-
剰余金の配当				515,838	515,838
当期純利益				2,006,409	2,006,409
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	2,324	500,000	992,895	1,490,570
当期末残高	170,012	64,390	6,500,000	7,270,031	14,004,434

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	39,513	15,055,105	51,090	51,090	15,106,196
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		-			-
別途積立金の積立		-			-
剰余金の配当		515,838			515,838
当期純利益		2,006,409			2,006,409
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			5,078	5,078	5,078
当期変動額合計	-	1,490,570	5,078	5,078	1,485,492
当期末残高	39,513	16,545,676	46,011	46,011	16,591,688

当事業年度(自 2022年4月1日 至 2023年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	1,572,000	1,008,755	1,008,755
当期変動額			
圧縮記帳積立金の取崩			
別途積立金の積立			
剰余金の配当			
当期純利益			
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			
当期変動額合計	-	-	-
当期末残高	1,572,000	1,008,755	1,008,755

	株主資本				
	利益準備金	利益剰余金			利益剰余金合計
		その他利益剰余金			
		圧縮記帳積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	170,012	64,390	6,500,000	7,270,031	14,004,434
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		2,319		2,319	-
別途積立金の積立			500,000	500,000	-
剰余金の配当				515,838	515,838
当期純利益				219,071	219,071
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	2,319	500,000	794,447	296,766
当期末残高	170,012	62,070	7,000,000	6,475,584	13,707,667

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	39,513	16,545,676	46,011	46,011	16,591,688
当期変動額					
圧縮記帳積立金の取崩		-			-
別途積立金の積立		-			-
剰余金の配当		515,838			515,838
当期純利益		219,071			219,071
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)			11,250	11,250	11,250
当期変動額合計	-	296,766	11,250	11,250	308,017
当期末残高	39,513	16,248,909	34,760	34,760	16,283,670

## 【注記事項】

### (重要な会計方針)

#### 1 資産の評価基準および評価方法

##### (1) 有価証券

子会社株式、関連会社株式および関係会社出資金

移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

##### (2) デリバティブ

時価法

##### (3) 棚卸資産

総平均法による原価法（収益性の低下した棚卸資産については簿価切り下げの方法により算定していません。）

#### 2 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

##### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

##### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### 3 引当金の計上基準

##### (1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### (2) 賞与引当金

従業員賞与の支出に備えるため、支給見込額に基づき、当事業年度に負担すべき額を計上しております。

##### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（3年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した事業年度から費用処理しております。

#### 4 収益及び費用の計上基準

当社は、以下の5ステップアプローチに基づき、収益を認識しております。

ステップ1：契約の識別

ステップ2：履行義務の識別

ステップ3：取引価格の算定

ステップ4：履行義務への取引価格の配分

ステップ5：履行義務の充足による収益の認識

当社は、精密化学品、機能材、樹脂添加剤の製造および販売を事業としております。物品販売については、契約の定めに基づき顧客に物品を引渡した時点や、インコタームズ等で定められた貿易条件に基づきリスク負担が顧客に移転する時点において、顧客が当該物品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該履行義務の充足時点で収益を認識しております。ただし、製品の国内の販売については、出荷時から当該製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間であるため、出荷時に収益を認識しております。

取引価格の算定については、顧客との契約において約束された対価から、値引き額等を控除した金額で算定しております。

なお、取引の対価は履行義務を充足してから概ね1年以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

5 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 重要なヘッジ会計の方法

・ヘッジ会計の方法

為替予約 振当処理によっております。

・ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 為替予約

ヘッジ対象 外貨建取引

・ヘッジ方針

当社社内規程に基づき為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジしております。

・ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、ヘッジ対象とヘッジ手段の通貨種別、行使日、金額等の条件がほぼ同一であり、相関関係が高いことから、有効性の評価を省略しております。

(重要な会計上の見積り)  
該当事項はありません。



(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「流動負債」の「設備関係未払金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「設備関係未払金」3,682,326千円、「その他」149,683千円は、「その他」3,832,009千円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する資産および負債

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権または金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
金銭債権	704,806千円	889,459千円
金銭債務	1,348,255千円	732,476千円

2 偶発債務

関係会社の金融機関からの借入金に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
タオカ ケミカル インド プライベート リミテッド	8,150千円 (5,000千ルピー)	千円 (千ルピー)

3 国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額およびその内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
圧縮記帳額	145,337千円	145,337千円
(うち、建物)	1,119千円	1,119千円
(うち、機械及び装置)	144,218千円	144,218千円

## (損益計算書関係)

## 1 関係会社との営業取引および営業取引以外の取引高の総額

	前事業年度	当事業年度
	(自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	(自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	4,289,137 千円	4,568,677 千円
仕入高	3,590,034 千円	2,967,947 千円
営業取引以外の取引による取引高	55,398 千円	51,178 千円

## 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目および金額ならびにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度	当事業年度
	(自 2021年 4月 1日 至 2022年 3月31日)	(自 2022年 4月 1日 至 2023年 3月31日)
運送費及び保管費	715,662 千円	687,177 千円
給料手当及び福利費	718,527 千円	721,897 千円
賞与引当金繰入額	200,464 千円	175,616 千円
退職給付費用	25,561 千円	30,565 千円
減価償却費	67,995 千円	74,684 千円
研究開発費	917,589 千円	848,104 千円
おおよその割合		
販売費	37 %	37 %
一般管理費	63 %	63 %

## (有価証券関係)

子会社株式、関連会社株式および関係会社出資金は、市場価格のない株式等のため、子会社株式、関連会社株式および関係会社出資金の時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない株式等の子会社株式、関連会社株式および関係会社出資金の貸借対照表計上額は次のとおりです。

区分	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)
子会社株式	262,428	262,428
関連会社株式	-	49,000
関係会社出資金	162,611	297,211
計	425,039	608,639

(税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
退職給付引当金	811,844 千円	794,092 千円
減価償却費	36,956 千円	34,791 千円
賞与引当金	142,458 千円	140,841 千円
未払金	6,116 千円	6,116 千円
棚卸資産評価損	74,770 千円	79,399 千円
未払事業税	19,390 千円	6,954 千円
減損損失	26,229 千円	20,010 千円
関係会社株式	52,180 千円	52,180 千円
その他	70,200 千円	55,501 千円
小計	1,240,143 千円	1,189,884 千円
評価性引当額	78,755 千円	78,296 千円
繰延税金資産合計	1,161,388 千円	1,111,588 千円
<b>繰延税金負債</b>		
その他有価証券評価差額金	20,268 千円	15,312 千円
貸方原価差額調整	31,297 千円	29,163 千円
圧縮記帳積立金	28,364 千円	27,342 千円
繰延税金負債合計	79,929 千円	71,817 千円
繰延税金資産の純額	1,081,458 千円	1,039,770 千円

## 2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2022年3月31日)	当事業年度 (2023年3月31日)
法定実効税率	30.6 %	30.6 %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1 %	2.0 %
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6 %	4.7 %
試験研究費の税額控除	5.1 %	2.6 %
住民税均等割	0.3 %	2.2 %
過年度法人税等	- %	7.9 %
その他	0.2 %	0.8 %
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.5 %	34.6 %

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係）」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	当期末減価償却累計額
有形固定資産						
建物	2,771,477	108,641	782	191,318	2,688,018	4,090,070
構築物	732,831	140,416	61	68,259	804,926	1,734,192
機械及び装置	3,300,585	1,016,057	4,457	910,444	3,401,741	19,685,557
車両運搬具	542	-	-	289	253	15,202
工具、器具及び備品	748,332	203,385	256	259,820	691,641	2,086,200
土地	1,208,903	-	-	-	1,208,903	-
リース資産	164,896	-	-	9,624	155,272	24,083
建設仮勘定	4,172,074	2,116,401	1,852,868	-	4,435,607	-
有形固定資産計	13,099,645	3,584,903	1,858,427	1,439,755	13,386,366	27,635,307
無形固定資産						
ソフトウェア	-	-	-	11,769	32,728	69,255
その他	-	-	-	2,629	19,537	25,451
無形固定資産計	-	-	-	14,399	52,265	94,706

(注) 1 有形固定資産の当期増加額の主なもの

機械及び装置 増加額 淀川工場 電気室新設ほか

播磨工場 排水処理施設 膜処理導入工事ほか

建設仮勘定 増加額 播磨工場 新多目的プラント(N-2)の建設ほか

2 無形固定資産の当期末残高に重要性がないため、「当期首残高」「当期増加額」および「当期減少額」の記載を省略しております。

3 「当期末減価償却累計額」には減損損失累計額を含んでおります。

## 【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	700	-	-	700
賞与引当金	465,851	460,565	465,851	460,565



(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年9月30日、毎年3月31日、そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	(特別口座) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 無料
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載します。 当社の公告掲載URLは次のとおりであります。 <a href="https://www.taoka-chem.co.jp/">https://www.taoka-chem.co.jp/</a>
株主に対する特典	なし

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書およびその添付書類ならびに確認書

事業年度 第122期(自 2021年4月1日 至 2022年3月31日)2022年6月24日近畿財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書およびその添付書類

2022年6月24日近畿財務局長に提出。

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第123期第1四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)2022年8月8日近畿財務局長に提出。

第123期第2四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)2022年11月10日近畿財務局長に提出。

第123期第3四半期(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)2023年2月10日近畿財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づき臨時報告書

2022年6月24日近畿財務局長に提出。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年 6月22日

田岡化学工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 畑 孝 英

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 村 武 浩

### < 財務諸表監査 >

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている田岡化学工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、田岡化学工業株式会社及び連結子会社の2023年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

田岡化学工業株式会社の精密化学品事業部の売上高の期間帰属の適切性及び実在性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>田岡化学工業株式会社の精密化学品事業部の売上高は13,856百万円であり、連結売上高の45.9%を占める。</p> <p>注記事項（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）「4 会計方針に関する事項（5）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおり、商品及び製品の販売については、主に引渡時点において顧客が当該商品及び製品に対する支配を獲得することから、履行義務が充足されると判断しており、当該商品及び製品の引渡時点で収益を認識している。ただし、商品及び製品の国内の販売については、出荷時から当該商品及び製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間であるため、出荷時に収益を認識している。</p> <p>収益認識については、主に以下の理由から、特に田岡化学工業株式会社の精密化学品事業部の売上高について、意図的に前倒して計上される潜在的なリスク、及び、架空売上が計上される潜在的なリスクが存在する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>精密化学品事業部の売上高は特定の顧客に対する依存度が高く、また、納入数量、価格等に関する長期納入契約等を締結していないことから、取引先の製法転換等による需要減退が発生した場合は経営成績に重要な影響を及ぼす可能性がある。</li> </ul> <p>以上から、当監査法人は、田岡化学工業株式会社の精密化学品事業部の売上高の期間帰属の適切性及び実在性の検討が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、監査上の主要な検討事項に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、田岡化学工業株式会社の精密化学品事業部の売上高の期間帰属の適切性及び実在性を検討するため、主に以下の監査手続を実施した。</p> <p>(1) 内部統制の評価</p> <p>販売に関する売上高の認識プロセスに関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。評価に当たっては、特に以下に焦点を当てた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出荷業務を委託している子会社や委託先倉庫の担当者がシステム上の出荷指示データおりに出荷されていることを確認する仕組み</li> <li>出荷指示データが自動的に出荷報告データに変換されて売上計上される自動化された業務処理統制の仕組み</li> </ul> <p>(2) 売上高の期間帰属の適切性及び実在性の検討</p> <p>売上高の期間帰属の適切性及び実在性を検討するため、以下を含む監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>期末日直前に計上された売上高の期間帰属の適切性を確かめるため、3月における一定金額以上の取引など、例外取引に該当する可能性があるとして抽出した取引について、運送会社の送り状における出荷日等と売上計上日を照合し一致を確かめた。</li> <li>売上高の実在性を確かめるため、期末日後における売上高のマイナス計上取引の有無を確認した。</li> </ul>

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。



## < 内部統制監査 >

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、田岡化学工業株式会社の2023年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、田岡化学工業株式会社が2023年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 内部統制報告書に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査等委員会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

- 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

2023年 6月22日

田岡化学工業株式会社  
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 畑 孝 英

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 中 村 武 浩

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている田岡化学工業株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの第123期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、田岡化学工業株式会社の2023年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

(精密化学品事業部の売上高の期間帰属の適切性及び実在性)

個別財務諸表の監査報告書に記載すべき監査上の主要な検討事項「精密化学品事業部の売上高の期間帰属の適切性及び実在性」は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「田岡化学工業株式会社の精密化学品事業部の売上高の期間帰属の適切性及び実在性」と実質的に同一の内容である。このため、個別財務諸表の監査報告書では、これに関する記載を省略する。

### その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査等委員会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- 1 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
  - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。